

東北学院大学 情報処理センター一年報

平成17年度版
No.4



東北学院大学情報処理センター一年報

目 次

1	巻頭言 東北学院大学情報処理センター 高木 龍一郎	1
2	寄稿	
2.1	「我が国の大学情報化の歩みについて」 福島大学名誉教授 早坂 明夫	3
2.2	「工学部での情報教育の一試み」 工学部IT教育委員会委員長 小野 孝	7
3	情報処理センターのシステム紹介と利用事例	
3.1	情報処理センターのシステムについて	9
3.2	土樋情報処理センターのシステム紹介	10
(1)	ハードウェア構成	10
(2)	ソフトウェア構成	11
3.3	土樋情報処理センターの利用事例紹介	12
3.4	泉情報処理センターのシステム紹介	23
(1)	ハードウェア構成	23
(2)	ソフトウェア	24
3.5	泉情報処理センターの利用事例紹介	25
3.6	多賀城情報処理センターのシステム紹介	42
(1)	ハードウェア構成	42
(2)	ソフトウェア	43
3.7	多賀城情報処理センターの利用事例の紹介	44
4	情報処理センター報告（平成17年度データ）	
4.1	利用状況報告	57
(1)	利用登録者数	57
(2)	利用者状況	58
(3)	授業科目名	60
(4)	時間割表	65
4.2	各種会議報告	68
(1)	情報システム委員会	68
(2)	情報システム部会	68
(3)	所員会議	69
4.3	センター見学者	70

5 平成17年度情報処理センター運営組織

5.1 組織図	73
5.2 情報システム委員会名簿	74
5.3 情報処理センター構成員名簿	75

6 東北学院大学情報処理センター各種利用規程

6.1 東北学院大学情報処理センター規程	77
6.2 東北学院大学情報システム委員会規程	78
6.3 東北学院大学情報処理センター利用規則	79

1. 巻頭言

東北学院大学情報処理センター
所長 高木 龍一郎

この度、東北学院大学情報処理センター年報第4号を発刊するにあたり、所長として一言ご挨拶申し上げます。

現在、学校法人東北学院では、平成19年4月の稼働を目指して、ネットワーク環境の更新作業を進めております。これにより、大学の教育・研究面におけるIT環境の向上も期待されるところであります。

ところで、大学をめぐるのは、いわゆる「全入時代の到来」と大学の生き残り競争が巷間取りざたされて久しいところです。どの大学でも、生き残りをかけ、「大学力」の向上を目指したFD活動に余念がありません。その一環として、個々の教員の「教育力」なるものも取り上げられるようになりました。IT機器を利用した教育技術も、「教育力」有無の要素として、FD関連の会議で問題とされることが増えております。

しかし、何時の時代でも、様々な最新技術を駆使できることが、そのまま「教育力」向上に結びつくものではないことはいまでもないことです。企業社会においては、プレゼンテーションのためにパワーポイントを利用することはごく当たり前のこととなっており、大学の講義でも、利用する教員が増えていきます。ところが、一見スマートなこの講義方式も、使い方を誤ると、教員の自己満足をもたらすだけで、学生の授業理解にとって逆効果となることも忘れてはならないでしょう。

情報処理センターという、IT関連の教育環境を預かる施設では、最新かつ利用しやすい環境及び「技術」を提供することが第一の使命です。パソコンが家電のように利用しやすいものになっていく必要があるのと同様に、教育機器としてのITも、いわゆるコンピュータアレルギーを抱える教員・学生にとって馴染みやすく利用しやすいものになっていく必要があるでしょう。同時に、情報処理センターの提供するIT環境が、教育活動において、教員がそれをどのように利用すれば、「教育力」の向上に結びつくのかということも、提示していく必要があると考えております。



2. 寄稿

2. 1 「我が国の大学情報化の歩みについて」

福島大学名誉教授 早坂 明夫

私は現在、福島大学、東北学院大学、東北福祉大学の3大学で非常勤講師として、情報・情報教育学関連科目の講義をしております。今般、東北学院大学泉情報処理センター主任、松澤教授から情報処理センター年報への「寄稿」をご依頼されたので、私が在職中に関わった計算機・計算機教育などについて思い出しながら記述してみました。古いことなので、いろいろと記憶違いのところなどもあるかと思いますがご勘弁ください。

1 東北地区国立大学における情報化の歩み

私は昭和35年3月に東北大学教育学部を卒業しましたが、その頃理理学部、工学部以外の学部学生にとっては、計算機を使えるということは夢のような話でしたし、東北大学が日本電気からデジタル計算機（NEAC-1102、写真参照）を購入した（昭和33年）ことも知りませんでした。その後、私は東北大学工業教員養成所に勤務し、昭和43年に福島大学に移りましたが、その当時、我々の建物の北側にあった金属材料工学科の建物に計算機が入ること聞きました。現東北大学情報シナジーセンターの年表によると昭和44年1月に大型計算機（NEAC2200-500）を導入、学内共同利用が開始されたことになっています。同年6月に



東北大学に昭和33年に納入された計算機（SENAC1号機、日本電気製）の写真、東北大学シナジーセンター提供

は我が国の大学における研究利用を目的とした計算機が地域の国立大学と共同利用するという形で、旧帝大系国立大学に大型計算機センターが設置されたのでした。これらの大型計算機センターは地域の国立大学の研究面でのサービスを担うもので、当然センター所属の教職員定員も配属されていました。また、地域の国立大学の研究者が大型計算機センターに出向いて使用する場合や新規利用者の講習会へ参加する場合などの旅費なども手当てされていましたが、自分の大学内での研究・教育に携わる時間の確保という点では問題をかかえていました。その後TSSと専用回線の技術の導入により、昭和47年に遠距離の地域国立大学に端末機をおいても大型計算機センターの計算機を利用できるようになったものの、依然として、計算結果は大型計算センターに郵送を依頼するか直接受け取りに行かなければならなかったのです。

時が移り、研究遂行上コンピュータ使用の利点が認識されるに伴って、地域の国立大学からの利用が増加し、又メインフレームコンピュータの低価格化により、地域の国立大学は特殊装置としての計算機という形で、文部省に競って概算要求するようになり、順次整備されるようになりました。しかし、特殊装置との位置付けのため、装置の維持費はつくものの管理運営のための定員は学内的に処置しなければならなかったもので、その同意作りが大変でありました。

社会の各分野の情報化の進展を踏まえて、大学においても情報科学教育が行われるようになり、多数の学生を対象とする施設設備の整備が急務となってきました。このころになると比較的低価格、高性能なパーソナルコンピュータが普及し、価格的にも従来の専用端末機に置き換えて利用することが可能になり、大学におけるコンピュータ利用は研究目的だけではなく、教育をも目的にするようになりました。

研究用に使うソフトウェアは一般的にはメーカーから供給されたものや、大型計算センターで作ったライブラリーを利用したもの、研究者による自作のものが大半でした。しかし、教育用になると、「コンピュータ、ソフトなければただの箱」と揶揄されるように、市販ソフトウェアの購入が積極的に進められました。しかし、教員の希望による整備は情報処理センターの財政的負担を大きくしました。そこで、地域の国立大学はコンピュータ維持金額が大きく、教職員定員が見込める情報処理センターの設置を競って概算要求するようになったのです。

しかし、ある時期から、センター所属の教職員を自前で配置することを条件にしか情報処理センター化が認められなくなり、依然、学内調整が必要でありました。

情報処理センターと位置付けられると、システムのリプレースを定期的に行うことができ、常に新技術を導入できるようになると共にある程度のソフトウェア整備が可能になりました。現在は、情報処理センター内ネットワーク、学内ネットワークの構築及びインターネット接続が一般的になり、学内各部署（庶務、会計、学務、図書館など）でのコンピュータの利用が進んでおります。

このように、大学における情報処理センターの役割は、研究、情報教育からさらに大学教育科目全般にわたるコンピュータ利用教育（いわゆる ICT 教育）と進んできております。今や、各大学の情報処理センターは全学的教育施設であり、情報技術の全学的サポートセンターの機能も担っていると言えます。それに伴って、各大学は予算規模の大きい総合情報処理センターの設置を希望し、概算要求を行っております。

以上、国立大学におけるコンピュータ導入の経過を述べました。財政的な措置は違うでしょうが、私立大学においても同様な経過をたどったのではないかと思います。現在、内容的には国立大学を凌ぐ学内の情報化を実現している私立大学もかなりあるようです。

2 東北学院大学泉キャンパス情報処理センターの ICT 教育支援について

私は、7年前から東北学院大学の法学部法律学科等の科目「コンピュータ演習」と教養学部情報科学科の科目「マルチメディアシステム A」を担当しており、この間、泉キャンパスの情報処理センターのコンピュータ教室を使わせて頂いております。これまで、2度、システム更新があり、現在のコンピュータ教室の使い勝手は以前のシステムよりかなり授業者にとって使い勝手が良くなっています。

私の授業はコンピュータと共に AV 機器類も活用するので、教卓上でスクリーン操作、暗幕開閉

操作、照明点滅操作などやOHP、VTR、コンピュータディスプレイなどの画面をプロジェクターで容易に投影できることなどは授業の効率化にとって大変便利です。コンピュータソフトウェアに関しては、授業用に使用するアプリケーションや授業支援のための便利なソフトウェアが充実していることが挙げられます。「コンピュータ演習」の授業は1年生に対するコンピュータリテラシー教育なので、ワープロソフト、表計算、お絵かきソフト、Webブラウザ、メールソフト、プログラミングなどがあれば十分です。また、「マルチメディアシステムA」の授業は高校教員免許状（教科「情報」）の取得のために開講され、マルチメディアに関する基礎知識の習得とマルチメディア作品の製作実習が主たる内容なので、IBM社のホームページビルダーを利用させてもらっています。このソフトウェアは、デジタイズの精細度は低いのですが一応、静止画、動画、音声、音楽などが取り扱えるのでマルチメディアの実習用には充分です。ホームページビルダーでは、取り扱えるファイルタイプが固定されていますので、学生が持ち込むデータファイルによっては別にファイル変換プログラムを事前に準備しておかなければならない難点もありますが、教師用コンピュータにWindowsOSのWindowsMediaPlayerおよび機能の高い、有料のQuickTime、RealPlayerなどをインストールして頂いて、これで対応しています。

次に私が一番便利に利用させてもらっているのが出席管理ソフトウェアと講義支援ソフトウェアです。1クラス65名の出欠を2回のクリックで収集でき、更にその結果を帰宅後ゆっくりWebサービス（ActiveMail）で確認・記録できることで、当該授業時間を有効に使えるという効果があります。講義支援ソフトでは、個々の学生PC画面が教官側から見えることや個々の学生の操作を止めて、教官PC画面を見せながら教師の説明に注目させる授業ができるという効果を実現できます。

その他、教師にとって有難いのは、教師毎に配布フォルダと提出フォルダを設定し、これにより授業用資料の配布や比較的大きい容量のレポートの回収が容易に行えるフォルダ管理ソフトウェアです。大いに利用させてもらっています。

私にとって、泉キャンパスIPC授業用システムは他大学のそれと比べ、非常に使い易く作られていると云えます。



講義支援ソフトウェアの生徒コンピュータの作業画面表示機能

3 これからの大学教育の情報化戦略について

現在、国立大学及び私立大学の各大学情報処理センターでは、研究及び教育のためのコンピュータシステムのハードウェアやソフトウェアはかなり整備されてきているとは思いますが、私が情報処理センター長をしていた時の問題点すなわち情報処理センターを利用する教員のコンピュータリテラシーのばらつきの問題が克服されているかということとそうでもないように思えます。自分の研究用に使う教員のコンピュータリテラシーはかなり高いものが有り、その効果は大きいのです

が、科目の授業に使用する教員のそれには相当なばらつきがあり、授業効果があがっていないケースもあります。しかし、今や小・中・高校で ICT 教育（情報・コミュニケーション技術を活用した教育方法）が推進され、情報技術教育教員以外の教員の授業効果も向上してきています。大学にはそのような授業を受けた学生が入学してくるのです。従って、大学の情報専門教育以外の教育においても、この ICT 教育手法を導入するべきだと思います。大学教員は入学してくる学生の学力低下を嘆いてばかりいないで、従来の教育方法を変えることで、学生の勉学意識を変える努力をしてみても如何かと思います。このためには、教育方法論の先生と情報処理の先生方で構成する授業支援研修センターを設置し、研究者であり教育者であるバランスのとれた大学教員を揃えることが必要ではないかと思います。また、入学してきた学生のために、e-learning 技術を活用して未履修科目自学システムを構築して、学生に履修させ、大学の専門授業のスムーズな勉学に役立てることも考えて良いのではないかとともに思います。これらのことは、これからの大学を『大学』足らしめる戦略として有効に働くのではないのでしょうか。

さらに、IC カード、総合認証、学内情報共有など学生・教職員に対する豊富なサービスシステムなどは大学キャンパス内に模擬情報社会を構築することであり、そのようなキャンパスで生活することが、学生が卒業後直面するであろうユビキタス社会への適応力を育成することにもなると思います。

最後に、大学を「教育システム」として見た場合、入学者（入力）を如何に社会に役立つ人間（出力）に育て上げるかを目的としたシステムであると思います。従って、そのことを達成する限り、大学は社会から期待される存在で有り続けることができるのだと私は考えています。

2. 2 「工学部での情報教育の一試み」

工学部 IT 教育委員会委員長 小野 孝

ひとくちに大学の工学部といってもその内容はバラエティに富んでいる。本学の工学部でも従来は機械工学、電気工学、応用物理学、土木工学というある意味でレガシーな名称の中に大きく分類されていたが、卒業生の多くが進む産業界の構造や受験生を取り巻く環境の激変にともない、最近、機械知能工学、電気情報工学、電子工学、環境建築工学へとその名称を変更した。

さて、外部から大学工学部を従来の一般的感覚で眺めればどの様に見えるのであろうか？おそらく、その中では「ものづくり」に特化した「おたく」な学生が「うごめいている」ことが期待されるのだろう。しかし最近の様々な情報からみると現実とは若干異なりつつある。すなわち、ものづくりの「上位概念」を理解し且つ「対人的なコミュニケーション能力」を備えた学生が「活発に往来」する像を外界では期待している様子である。

そうであるならば現下環境での工学部における情報教育には何が望まれるのであろうか、という想いが自然に湧いてくることになるが、「対人的なコミュニケーション能力」を備えた学生が「活発に往来」という点は私の手に余る内容なので、ここではものづくりの「上位概念」を理解するという限られた命題に対して工学部 IT 教育委員会のとったひとつの試みを紹介してみたいと思う。

まず極めておおざっぱに「上位概念を理解した」ということを下世話に言えば「Excel や Word を使える人材ではなく、Excel や Word を作ることでできる人材になる」と言うことになる。そしてこの議論を進めるにあたり第一に明らかにすべき点は、「Excel や Word を作ることでできる」能力といわゆる「ものづくり」の能力との間に相関が必ずしも存在しないことである。なぜなら Excel や Word を作るができるということは抽象化された論理構築能力を意味し、いかなる「物」もそこには関与しないからである。しかしながら、その概念とレガシーな工学部に期待される「ものづくり」とをすべてリンクして「教育すべき」と考え始めると、問題は一挙に複雑化してしまう。すなわちそれぞれの能力を分けるべき境界がその「リンク」によって極めてあいまいになってしまうからである。そしてこの「あいまいさ」こそが工学部の教員の多くが感じる情報教育の困難性の一因と考えられるのである。

しかし、前記の因果関係をみればその解決が実は意外と簡単であることが理解される。すなわち教育内容をふたつのカテゴリに分け、それらの関係を学生に明示したうえでそれぞれを理解させればよいという、極めて当り前の結論に行き着くのである。そしてそのカテゴリの第一は、抽象化の概念を取り扱ういわゆる情報科学と呼ばれる分野を扱うものであり、その第二は物を作るためまたは使うためのツールとなるいわゆる情報工学と呼ばれる分野を扱うものである。なお、誤解を防ぐためここで用いる用語「情報科学」と「情報工学」とは本学の特定の学部あるいは学科名あるいはその内容を意味するものではないことをここに明記しておく。

さて、前者の教育は概念の学習を目的とするのであるから、いわゆる数学関連の教育時と同様、情報機器の使用は必須ではない。そのため学生諸君は基本的にその学習場所をその様な機器によって限定されることは無く、大学でも自宅でもどこでも学習を自由に行うことが可能である。しかし、

後者は「実習」を伴わなければ畳上の水練と同様その内容を習得したとはいいい難く、その学習には情報機器の使用が必要となる。したがって「情報工学」関連の教育を受講する学生諸君に対し、学習可能な場所の公平性(学習機会の公平性といってもよい)を担保するためには、学習する場所が、講義受講時に使用する情報機器によって限定されない環境を学生に対して用意することが必要であることが明らかとなる。実習が大変に多い工学部においてはこの点を特に明確に意識した情報教育施設全般の構築が望まれることとなるのである。

工学部 IT 教育委員会では大学学長提案(当時倉松学長)をうけ、3年程前より上記の問題を解決するための議論ならびにその解決に向けた活動を開始した。そしてその成果として、Linux をベースとし使用ライセンスが不要で且つ学生諸君に無償で配布できる「大学教育用に特化した統合ソフトウェア」を独立行政法人産業技術総合研究所(以下産総研と略称)と共同で開発し、それを実際の工学部の教育現場で使用する試みを行ってきた。そのソフトウェアの特徴をあげると大きく以下三点となる。

- 1) OS も含めライセンス・フリーで本学独自の教育内容に合わせ自由に改編配布できる。
- 2) ソフトウェア配布時のメディアを基本的に選ばないため、使用者への配布方式を柔軟に選択できる。(CD や DVD あるいはフラッシュメモリなどいずれでも可)
- 3) それらのメディアまたはそのイメージを教育現場で使用すれば、学生諸君は教育現場で使用しているソフトウェア環境を丸ごと自宅に持ち帰り自宅での学習に活用することが可能で、従来この種の教育を行う上で大きな問題のひとつであった「学習(演習)場所の制限」を取り除くことが出来、学習効果を大きく向上できる可能性を持つ。

このソフトウェアは Knoppix-EduTG (クノーピクス) と呼ばれるもので、その基本はドイツで開発されたものであるが、その日本語化を産総研が行い、その後産総研と本学工学部 IT 教育委員会ならびに一般企業とが共同で本学工学部での教育用に内容を改編特化したものである。

このような過程を経て本学において独自に改編作成された Knoppix-Edu シリーズは、関係の職員の方々の多大な努力により、工学部情報処理演習室の全端末上でも使用できる体制が既に整い、工学部各学科での多くの「情報工学」関連の講義に利用され成果をあげつつある。同時にそれら Knoppix-Edu シリーズは CD の形で工学部の学生諸君に配布され、演習室における環境と同一環境で学生諸君の自宅学習に供されることにより、当初の開発目的であった「必要となる情報機器により学習する場所を限定されない環境を学生に対して用意する」という命題の実現をある程度行うことが出来たと考えている。

以上駆け足ではあるが工学部で現在行われている情報教育に関する試みのひとつを紹介した。

最後になるが、長期間を掛けて整備されてきている本学の優れた情報教育研究施設ならびに各種システムに今回の Knoppix-Edu シリーズが加わり、その有する利点を最大限に発揮しつつ更に優れた「工学部における情報教育システム」として統合され、結果として「情報工学」関連教育の進展が大きく進み「Excel や Word を作ることのできる人材」が陸続として輩出されて行くことを委員の一人として切に期待したい。

3. 情報処理センターのシステム紹介と利用事例

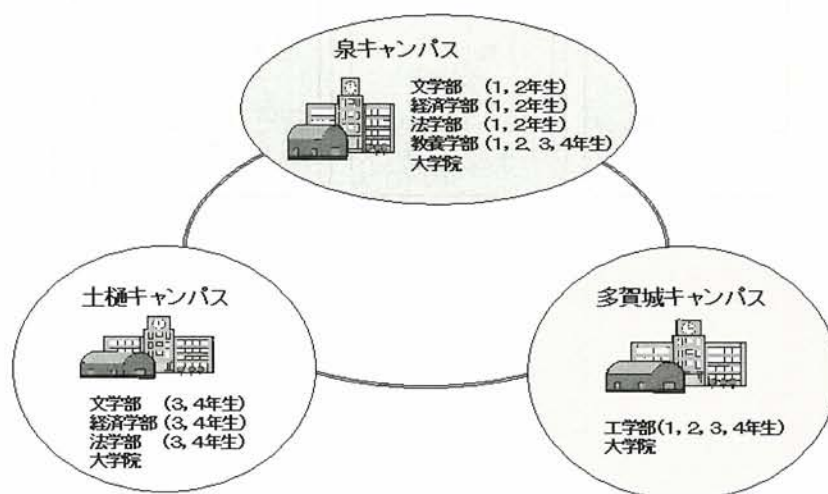
3. 1 情報処理センターのシステムについて

東北学院大学は、土樋キャンパス、泉キャンパス、多賀城キャンパスの3つのキャンパスに分れています。それぞれのキャンパスには、学生の教育や教員の研究を支援するための情報処理センターが設置されています。これら3つの情報処理センターのコンピュータシステムは各キャンパスに所属する学部・学科の教育と研究を支援することを目的にシステムを構築し運用してきました。しかし、最近の急速なIT化の波は教育現場にも押し寄せ、従来にはなかったいろいろな機能が要求されるようになってきました。特に、教育へのインターネットの活用、コンピュータリテラシー教育など情報処理センターが支援する範囲が大きく変わってきました。

そこで、平成16年4月より3キャンパスの情報処理センターのシステムを同時に新しいコンピュータシステムに更新することにしました。従来情報処理センターのシステム仕様は別々に設計してきましたが、今回は3つの情報処理センターを学生や教員から一つの情報処理センターと認識できるように、ソフトウェア、利用法、運用管理などを可能な限り共通化するようにしました。さらに、各キャンパスに所属する学部・学科の教育に影響を与えないようにも考慮しました。このシステムの実現により、学生や教員はどのキャンパスの情報処理センターでも同じサービスを受けられるようになりました。さらに、ファイルサーバに保存したファイル類も、どのキャンパスからも参照・保存できるようになりました。また、電子メールについても、まったく同じ操作で電子メールの受信や送信ができるようになります。

このような考え方で構築された3つのキャンパスの情報処理センターのシステムについて紹介します。

東北学院大学の3つのキャンパス

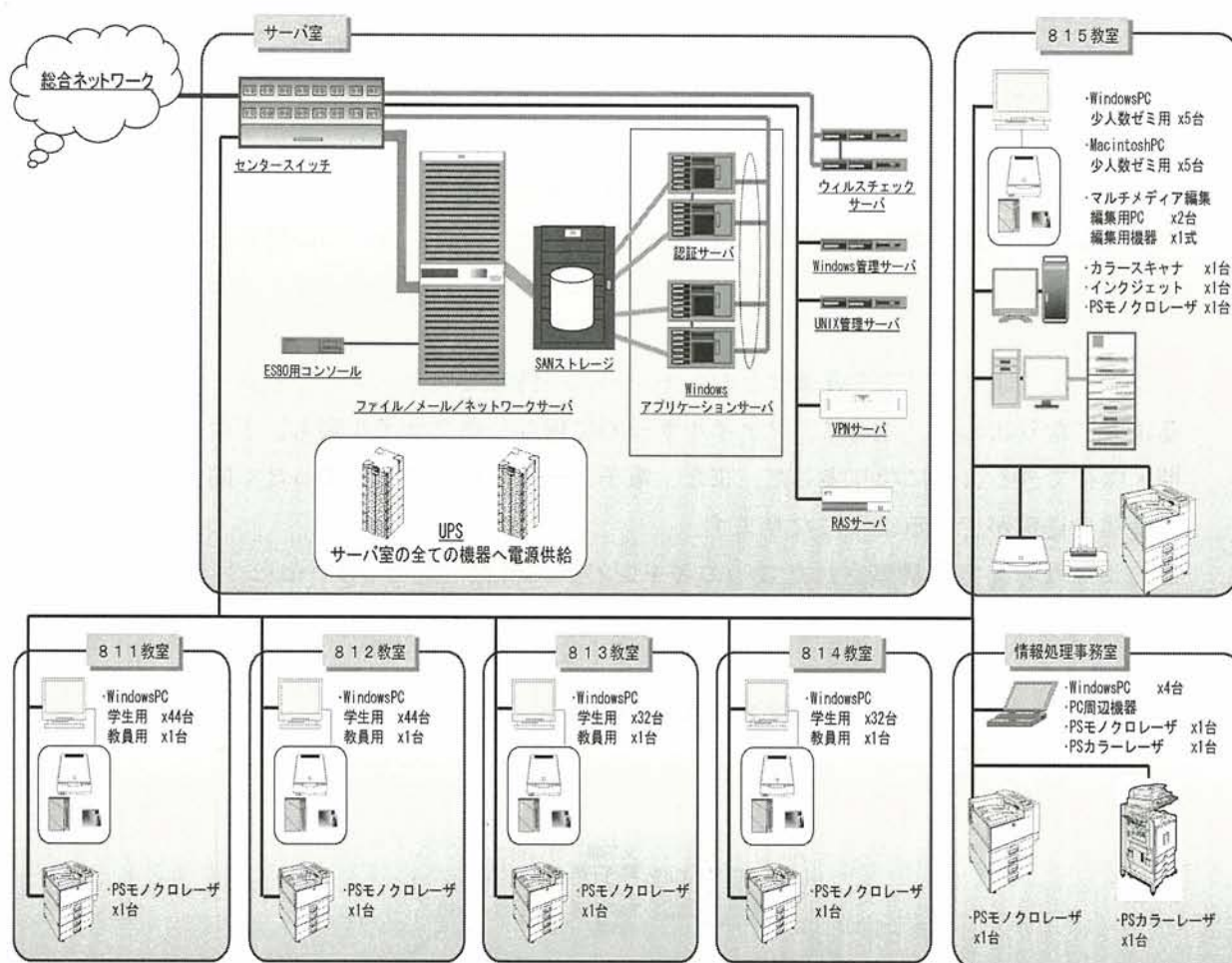


3. 2 土樋情報処理センターのシステム紹介

土樋情報処理センターでは、文学部・経済学部・法学部に所属している昼間主コースの3・4年生と夜間主コースの全学年を主対象として、コンピュータリテラシー教育や各種アプリケーションを用いた実習、外国語教育等を支援しています。

平成16年4月に導入した新システムでは自由度が高くかつ安定性も高い講義環境の提供を目指して最新技術を導入し、教員および学生にとって利用しやすいコンピュータシステム環境を実現しています。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

811 教室～814 教室		815 教室		全教室 (アプリケーションサーバ経由)
学生用 PC (152 台)	教員用 PC (4 台)	少人数ゼミ用 WindowsPC (5 台)	少人数ゼミ用 MacPC (5 台)	Z!Stream が動く PC (Windows) から、 以下のライセンス数内で同時利用可能
OS:Windows XP Professional MS Office 2003 Pro MS Word MS Excel MS PowerPoint MS Access MS Publisher MS VisualStudio.net 2003 一太郎 2004 Acrobat 6 VMware 4 SymantecAntiVirus CE Z!Stream 2.0 HDD Keeper Java2SDK TeraTermProV2.3+1.9J SSH 1.5.4 TeraPad V0.85 +Lhaca V1.18 FFFTP V1.92 CyberLinkPowerDVD4.0 B's Recorder GOLD PE for HITACHI Java VM WiingNet 学生用	OS:Windows XP Professional MS Office 2003 Pro MS Word MS Excel MS PowerPoint MS Access MS Publisher MS VisualStudio.net 2003 一太郎 2004 Acrobat 6 VMware 4 SymantecAntiVirus CE Z!Stream 2.0 HDD Keeper Java2SDK TeraTermProV2.3+1.9J SSH 1.5.4 TeraPad V0.85 +Lhaca V1.18 FFFTP V1.92 CyberLinkPowerDVD4.0 B's Recorder GOLD PE for HITACHI Java VM WiingNet 教員用 オーサリングツール アンケートツール Photoshop Elements2	OS:Windows XP Professional MS Office 2003 Pro MS Word MS Excel MS PowerPoint MS Access MS Publisher MS VisualStudio.net 2003 一太郎 2004 Acrobat 6 VMware 4 SymantecAntiVirus CE Z!Stream 2.0 HDD Keeper Java2SDK TeraTermProV2.3+1.9J SSH 1.5.4 TeraPad V0.85 +Lhaca V1.18 FFFTP V1.92 CyberLinkPowerDVD4.0 B's Recorder GOLD PE for HITACHI Java VM WiingNet 校内 LANPC オーサリングツール PageMaker 7.0 Illustrator CS Mathematica 5 Photoshop Elements2 SAS(option 含む) Homepage Builder V8	OS:MacOS9/OSX MS Office XP V.10 MS Word MS Excel MS PowerPoint PageMaker 7.0 Acrobat 6 Photoshop Elements 2 IllustratorCS NortonAntiVirus マルチメディア編集用 PC (2台) OS:Windows XP Professional Premiere LE HDD Keeper SymantecAntiVirus CE Adobe Reader 7	OS:Windows XP Professional 秀吉 2003 50 ライセンス 弥生会計 03PRO 100 ライセンス SPSS(option 含む) 12 ライセンス Clementine 7.2 12 ライセンス
814 教室最前列 (6 台) 上欄に加え以下	教員用 PC(2 台) 上欄に加え以下			
SAS(option 含む)	SAS(option 含む)			

3. 3 土樋情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	会計情報システム	経済学部 経営学科 (昼間主・夜間主コース) 3年 通年
2	法情報調査	大学院法務研究科 1年 通年
3	経営分析論	経済学部 経営学科 (昼間主・夜間主コース) 3・4年 通年
4	文献購読Ⅱ	経済学部 経営学科 (昼間主コース) 3年 通年
5	国際経営論	経済学部 経営学科 (昼間主コース) 3・4年 通年
6	翻訳実践	文学部 英文学科 (夜間主コース) 4年 通年
7	情報検索演習	文学部 英文学科、歴史学科 (昼間主コース) 4年 前期・後期
8	情報メディアの活用	文学部 英文学科、歴史学科 (昼間主コース) 3年 前期・後期
9	基礎統計学	文学部 歴史学科 (昼間主コース) 3年 後期
10	コンピュータ演習	文学部 英文学科 (夜間主コース) 1年 後期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講義名：会計情報システム

対象学生：経済学部 経営学科（昼間主・夜間主コース） 3年 通年

担当教員：大森 國利（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel、 Microsoft Access

テーマ：

PCによる会計処理

講義内容・授業計画：

この授業では、パーソナル・コンピュータで用いられている表計算ソフトとデータベース・ソフトを会計システムの設計や財務分析に適用する方法などについて学習する。

前期：表計算ソフトによる会計処理

- * 各種関数（回帰分析、相関係数など）を利用した経営統計モデルの処理
- * 各種機能（ソルバー、ピボット・テーブル、ゴールシーク、シナリオ、正味現在価値関数、内部利益率関数など）を利用した経営意思決定モデルの処理
- * 表計算・グラフ作成機能を利用した財務諸表分析
- * 表計算機能を利用した行列簿記の処理
- * VBAを用いた行列簿記の仕訳データ入力

後期：データベース・ソフトによる会計処理

- * データベース・ソフトによるデータベースの構築と検索
- * サンプルデータベース（Northwind Trader）による各種検索
- * データベース・ソフトによる複式簿記の処理
- * 実体関連モデルによる会計処理（McCarthy モデル）

講義名：法情報調査

対象学生：大学院 法務研究科 1 年 前期

担当教員：菊地 雄介（所属：法務研究科）、薮口 康夫（所属：法務研究科）、高木 龍一郎（所属：法学部）

主な使用ソフトウェア：Internet Explorer、一太郎、MS-Word、MS-Excel、
Wing Net、Adobe Reader

授業内容・目的：

法律学の学習・研究や法律実務に必要な法情報（法令・判例・文献その他、法曹実務に必要な情報）の探索・整理・分析の技法等、法曹としてのもっとも基礎的な専門的技能を修得することが、本講義の目的である。また、法情報のうちでも判例については、法律基本科目の学習の段階で登場するのみならず、実務法曹となれば解説も付されていない公判判例集等を読み込んで、上訴の当否や上訴理由の如何を検討しなければならないことから、入学後早期にその読み方を習得する必要がある。そこで、本授業では、判例の読み解き方を特に重視し、多くの授業回数をそれに充てている。

講義内容・授業計画：

授業形式は、講義と実習を併用する。すなわち、法令検索・判例検索とその読解・文献検索といった主要な授業テーマごとに、まず第1回目の講義をもとにして、次の授業では学生の実習機会を用意し、次第に自立的な実習の要素を増やしていった最後に仕上げの検索および資料作成のテストに取り組ませる、といった学習サイクルの積み重ね方式で、順次各自のテーマを消化させることとする。

講義名：経営分析論

対象学生：経済学部 経営学科（昼間主・夜間主コース） 3・4年 通年

担当教員：櫻井 貴憲（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：

講義スタイル：

通常は、普通教室において企業の財務諸表分析の理論を講義している。この段階では、各種の計算も電卓や手計算で行っている。理論的な学習が済んだ後に、情報処理センターに教室変更を行い、実際に多くのデータを用いて、理論で学んだ内容を確認していく。なお、その段階で、講義の出席者数が情報処理センター（811 教室と 812 教室）の収容人数よりも多い場合には、情報処理センターは使用できないので、そのまま普通教室で講義を行う。

講義内容：

会計情報の役割の説明から始まって、連結財務諸表の読み方、株主資本価値の評価方法、比率分析の方法、ファンダメンタルズ分析を利用した株式投資の方法等を学習していく。

便利なツールとソフトウェア：

基本的に講義は、講義内容をまとめた PowerPoint のファイルをスライドショーにして学生に説明していくかたちで行われる。また、分析作業にあたって Excel や Access などを使用していく。

その際に、ワコム社のタブレットと JustWrite Office を使ってスライドにペンで書き込みしながら説明している。ペン入力とは追加的な説明を図や文字で素早くできるだけでなく、蛍光ペンをツールを使うと、書き込みしても背景の PowerPoint の文字が塗りつぶされないのが、非常に便利である。

また、情報処理センターに限ったことではないが、スクリーンを降ろすと、ホワイトボードや黒板が隠れてしまって板書ができないという問題が生じる教室が多い。ワコム社の JustWrite Office では、ホワイトボード機能がついていて、PowerPoint のファイル画面をワンクリックでホワイトボード画面に変更でき、スクリーンをホワイトボード代わりに使うことができる。もちろん保存ができるため、いつでも前の板書に戻ることができる。

E-Learning：

2006 年度から講義の復習を web 上で行わせることを試みる予定である。web 上に簡単な復習問題を掲載し、採点も web 上でできるようなアフター・サービスを開始する予定である。文字だけの解説では効率が悪い復習問題については、動画とスライドを同期させた解説も試みてみようかと考えている。

講義名：文献購読Ⅱ

対象学生：経済学部 経営学科（昼間主コース） 3年 通年

担当教員：松村 尚彦（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：

テーマ：

株式のバリュエーション

講義内容：

株式のバリュエーション（本質的な価値の算出）は、企業経営のパフォーマンス評価や、投資家から見た企業の投資価値を判断する上で、非常に重要な役割を果たしている。この講義では、株価のバリュエーションについて単なる理論としてだけでなく、それが「株主重視の経営」や「コーポレートガバナンス」の議論とどのように結びついているのかを考えながら、学習してゆくことにしたい。なお受講者の条件であるが、会計学の基本的な知識があり、数学を使うことに抵抗感がなく、英語の文献を読むことが苦にならない人が望ましい。

授業計画：

1. 投資の基本的な要素

①キャッシュフローサイクル、②貨幣の時間的価値、③リスクの評価

2. 株式のファンダメンタル価格

①配当割引モデル、②ゼロ成長モデル、③定率成長モデル

3. リスクの評価

①不確実性分析のフレームワーク、②分散投資によるリスク低減効果

③分散と共分散

4. 資本コスト

①投資家の要求収益率、②資本資産評価モデル（CAPM）、

③資本コストの決定と証券市場

5. 企業の価値創造プロセス

①競争環境の分析、②競争優位の戦略、③経営戦略とバリュエーション、

④コーポレートガバナンスと証券市場

講義名：国際経済論

対象学生：経済学部 経営学科（昼間主コース） 3・4年 通年

担当教員：村山 貴俊（所属：経済学部）

主な使用ソフトウェア：特になし

テーマ：

国際企業の戦略的マネジメント

講義内容：

近時において、多くの企業は、その業種や規模の如何を問わず、自らの存続と発展のために、モノ、ヒト、カネ、情報という経営資源を、国際的視野のもと管理・統制していくことを強いられている。

本講義では、まず企業が国際化する理由と手段を明らかにしたうえで、国際企業内部における組織や人的資源管理などマネジメントの問題を考察する。

講義名：翻訳実践

対象学生：文学部 英文学科（夜間主コース） 4年 通年

担当教員：箭川 修（所属：文学部）

主な使用ソフトウェア：Wingnet→Microsoft Word

テーマ：

翻訳技法演習

講義内容・授業計画：

英文和訳としての翻訳技法の習得を目指す。英文教材は、Cheeseburgers : The Best of Bob Greene（吉富・西村・光富編註、松柏社）。

授業の実践形態：

Wingnet によって教材の配布、レポート管理を行なっている。

学生は各自のコンピュータのウィンドウを上下に分割し、上方に配布された英文教材を表示し、下方で翻訳作業を行なう。翻訳は可能な限り前方から行なうという方針のもと、理解すべき部分を蛍光ペンによって色付けを行ないながら翻訳作業を進める。授業中、教員は Wingnet を通じて、学生に助言や添削を行なう。

授業終了時に当日の作業結果をレポートとして提出させるが、授業時間内に作業が完了しなかった学生は随時レポートを更新できる。

講義名：情報検索演習

対象学生：文学部 英文学科、歴史学科（昼間主コース） 4年 前期・後期

担当教員：石垣 久四郎（非常勤講師）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel/Word、Internet Explorer、Java2SDK、WingNet、HTML、テキストエディタ

テーマ：

コンピュータ及び情報ネットワークシステムの概要、データベースの概念及び情報検索システムの基礎、情報検索技法の実践と Web プログラミング演習について、講義と演習を通じてコンピュータ及び情報ネットワークによる情報検索システムの知識を修得する。

講義内容と計画：

図書館情報学の基礎知識として、コンピュータの基本構成・処理動作・情報表現・プログラミング・情報処理、コンピュータネットワークとインターネットの概要、データベースの概念と情報検索システムの概要・構成と検索技法、Web プログラミングについて、講義と演習を行う。

講義は、以下のようなスケジュールで行う。

第1週から第6週までは、講義室で講義内容全体についてを講ずる。

第7週から最終週までは、情報処理センターにおいてネットワークシステム配下のパーソナルコンピュータ（端末）を使って、以下の演習と実習を行う。

- (1) ブラウザ Internet Explorer と Microsoft Word を使って、インターネット上に存在する様々な情報サーバにアクセスして、情報検索の実践、及びと検索結果の評価と利活用としてのレポート作成編集処理の実習を行う。また、毎週検索演習課題を提示し、演習結果についてのレポートを作成して、提出することを課す。
- (2) HTML、Java2SDK、テキストエディタを使って、情報発信のための Web プログラミングの演習と実習を行う。

講義名：情報メディアの活用

対象学生：文学部 英文学科、歴史学科（昼間主コース） 3年 後期

担当教員：石垣 久四郎（非常勤講師）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel / Word, Internet Explorer, Java2SDK,
HTML, テキストエディタ, WingNet

テーマ：

情報社会における学校図書館の活動環境は、従来の印刷資料に加えて、文字、映像、音声を統合化したマルチメディア資料（電子情報）とインターネット情報の積極的な活用が学校教育に導入され、多種多様化へと変革している。本講義では、このような教育環境下における学校図書館司書教諭を目指す受講生が児童生徒に対し、高度情報通信機能がもたらす不安定な情報の氾濫の中で情報の真偽、正確さを判断、評価するための知識を教育・指導することができる教員育成をねらいとする。

講義内容と計画：

本講義の内容は、(1)学校教育と情報社会、(2)情報メディアの系譜とその現在、(3)多様なメディアの利用、(4)学校図書館とコンピュータ、(5)電子図書館と学校図書館(6) 学校図書館と著作権、(7)情報検索の基礎、(8)データベースの概念とデータベースの作成法・利用法、(9)インターネットの仕組み、(10)インターネットプログラミングの仕組みと作成、(11)学校図書館と著作権について、講義と演習・実習を行う。

講義は、以下のスケジュールで行う。

第1週から第7週までは、講義室で講義内容全体について講ずる。

第8週から最終週までは、情報処理センターにおいてネットワークシステム配下のパーソナルコンピュータ（端末）を使って以下の演習と実習を行う。

- (1) ブラウザ Internet Explorer と Microsoft Word を使って、インターネット上に存在する様々な情報サーバにアクセスして、情報検索の実践、及びと検索結果の評価と利活用としてのレポート作成編集処理の実習と検索演習課題の検索結果についてのレポートを作成して、提出することを課す。
- (2) Microsoft Excel を使って、関係型データベース作成の実習を行う。
- (3) HTML、Java2SDK、テキストエディタを使って、情報発信のための Web プログラミングの実習を行う。

講義名：基礎統計学

対象学生：文学部 歴史学科 3年 後期

担当教員：岡安 隆照（非常勤講師）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel

講義内容：

統計学の基礎理論、市販の表計算ソフトによるデータ解析の方法、統計学的研究の効果的なプレゼンテーションなどについて学ぶ。

主な内容：

- (1) 統計学の目的と理念
- (2) カイ 2 乗分布などの頻出する分布
- (3) データの記述法
- (4) Excel によるパラメータの推定と、帰無仮説の検定
- (5) 統計学的研究の効果的なプレゼンテーションなど。

講義名：コンピュータ演習

対象学生：文学部 英文学科（夜間主コース） 1年 後期

担当教員：大野 芳希（非常勤講師）

主な使用ソフトウェア：Microsoft Word、Microsoft Excel

講義内容：

情報処理の基礎を、ワープロ、表計算などの実習を通じて学ぶ。

主な内容：

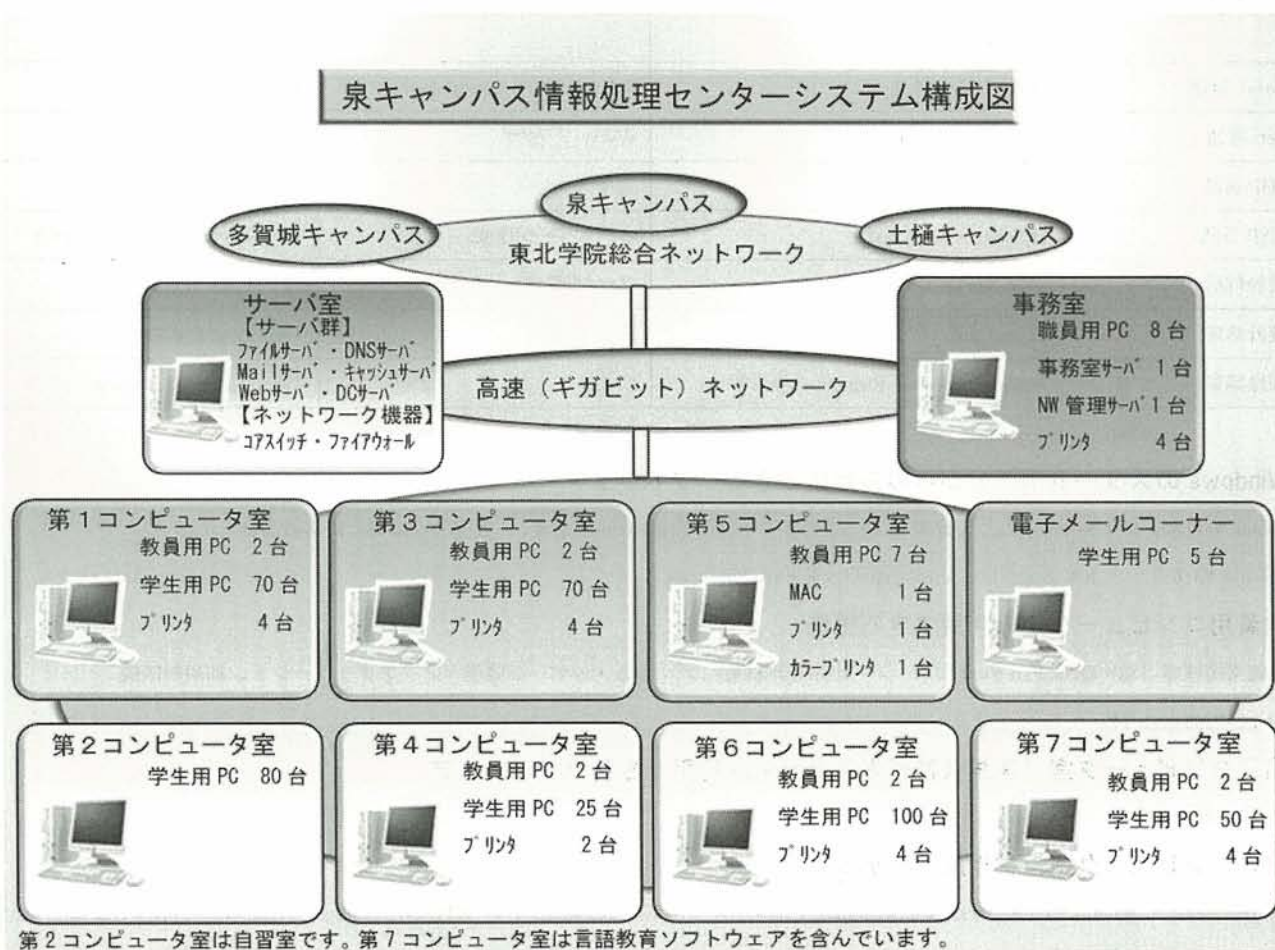
- (1) コンピュータの基本操作
- (2) インターネットと電子メールの実習
- (3) Word による日本語ワープロ入門と応用
- (4) Excel による表計算とグラフ作成入門
- (5) 簡単なホームページの作成

3. 4 泉情報処理センターのシステム紹介

泉情報処理センターでは、文学部・経済学部・法学部・教養学部の1・2年生の情報処理入門教育と、教養学部の3・4年生と大学院人間情報学研究科の専門的な教育を支援することを主な目的としています。特に、1・2年生を対象とした情報処理入門教育の支援を重視しています。そのための独自のソフトウェア起動メニュー画面を設計・開発し採用するなど、初心者の多い講義においても、円滑な講義が行われるように様々な配慮をしています。

平成16年4月から稼動をはじめた新システムでは、マルチメディア等の先端技術を導入して、多様な情報を扱える良質で高度な大人数教育にも対応するコンピュータシステム環境を実現しています。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

学生起動メニュー画面から利用できるソフトウェア

表示名	ソフトウェア名	表示名	ソフトウェア名
日本語ワープロ	Microsoft Office 2003 Professional Word	グラフィックス処理	G.CREW8 Plus
表作成	Microsoft Office 2003 Professional Excel	3次元グラフィックス処理	Shade 7 Basic
データベース作成	Microsoft Office 2003 Professional Access	数式計算	Math Type Ver5.0
プレゼンテーション	Microsoft Office 2003 Professional PowerPoint	数式処理	Maxima Ver5.9.0
日本語エディタ	TeraPad Ver0.85	タイピング練習	Touch Typing Trainer
Visual Studio .NET 2003	Visual Studio .NET 2003 (C++,C#,Basic,J#)	データベース管理	MySQL Ver4.0.17
C++言語	Boland C++ Ver5.5	スタースイート8 Writer	StartSuite Writer
Java 言語	Java2 Platform Standard Edition Ver1.4.2.03	スタースイート8 Calc	StartSuite Calc
Basic 言語	99Basic Ver1.1.9	スタースイート8 Impress	StartSuite Impress
Perl 言語	Active Perl Ver5.8.2	WWW ブラウザ	Internet Explorer Ver6.0
PHP 言語	PHP Ver4.3.4	電子メール	Active! mail 2003
LISP 言語	DrScheme Ver206p1	ホームページ作成	ホームページビルダー Ver8.0
統計解析	SPSS Ver14.0	ファイル転送	FFFTP Ver1.92
統計処理	R Ver1.8.1	リモート端末	Tera Term Pro Ver2.3
画像編集	Adobe Photoshop Elements Ver2.0	UNIX	Turbo Linux 10 desktop

Windows のスタートボタンからのみ利用できるソフトウェア

Adobe Acrobat 6.0 Standard / Quick Time Ver6.4 / Real Player Ver10.5 / Windows Media Player Ver9.0

+Lhaca Ver0.72 / EDU Symantec AntiVirus Corporate Edition

教員用コンピュータのみ利用できる機能

講義支援機能 (SKY MENU Pro Ver5.0) / 出席管理機能 / 緊急メッセージ機能 / アプリケーション利用制限機能

Adobe Premiere LE

第7コンピュータ室 (言語教育優先教室) のみ利用できるソフトウェア

Korean Writer V5 / Chinese Writer7

第5コンピュータ室教材作成システム

一太郎 2004 / Absoft Pro Fortran for Windows / コンバートスター統合版 15 / MPEG 自由自在 / Creative Suite Premium J MAC

/ リッチ・テキスト・コンバータ 2003 / 表 OCR・文書 OCR for Excel&Word v5.0 / The Graphics for Windows

Internet basic internet スグレモ / INSTANT COPY V3.0 / 新英和・和英中時点 V3.0 / 広辞苑第五版 / StarSite7

新英和・和英中時点 V3.0 / J エックス 9 カ国語セレクト 3 / FileMakerPro6J / Visio 2003 Professional

ViaVoice for Windows Pro V10 / Microsoft Office vX:mac / NortonAntiVirus for Macintosh Ver9.0 / EGWORD13

3. 5 泉情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生		
1	基礎統計学／統計学	文学部	歴史学科 1 年 英文学科 2 年	後期 後期
2	情報リテラシー	経済学部	経済学科 1 年	通年
3	情報リテラシー	経済学部	経済学科 1 年	通年
4	総合演習	経済学部	経営学科 3 年	後期
5	英語 I	法学部	法律学科 1 年	通年
6	コンピュータ演習	法学部	法律学科 1 年	半期
7	コンピュータ演習	法学部	法律学科 1 年	半期
8	基礎コンピュータ A・B	教養学部	1 年	半期
9	基礎コンピュータ A および B	教養学部	1 年	半期
10	基礎コンピュータ A	教養学部	1 年	半期
11	基礎コンピュータ B	教養学部	1 年	半期
12	基礎コンピュータ B	教養学部	1 年	半期
13	基礎コンピュータ B	教養学部	1 年	後期
14	コンピュータと論理	教養学部	2 年	後期
15	社会調査実習	教養学部	人間科学科 2 年	通年
16	マルチメディア論 A	教養学部	情報科学科 1 年	前期

つぎに、各講義で利用しているソフトウェアや講義内容について説明します。

講義名：基礎統計学/ 統計学

対象学生：基 1, 英 2 (泉), 歴 3 (土樋)/ 旧史 1 (泉), 共に後期

担当教員：岡 安 隆 照

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel

講義内容:

統計的手法の基礎理論, Excelによるデータ解析の方法, 統計学的な研究の結果のプレゼンテーションの技術, など, について学ぶ.

主な内容:

- (1) 統計学の目的と理念
- (2) カイ 2 乗分布などの, 頻出する分布
- (3) データの記述法
- (4) Excel によるパラメータの推定と, 帰無仮説の検定
- (5) 統計学的な研究の結果の効果的なプレゼンテーションなど.

講義名：情報リテラシー

対象学生：経済学部経済学科1年 通年

担当教員：佐藤 健

主な使用ソフトウェア： MS-Excel, MS-Word, MS-PowerPoint, Internet Explorer

講義内容：

情報は生き物です。情報リテラシーとはその情報を活用する能力のことをさします。この講義では「情報の収集」、「情報の分析」、「情報の判断」、そして「情報の伝達」といった4つのテーマについて学習します。

「情報の収集」では、インターネットを利用した情報検索や、図書データベースを利用した図書検索などを通して、いかにして自分が必要な情報を入手するかという手法について学習します。また、インターネットを利用していく上で必要となる基礎知識や情報倫理、セキュリティなどの現状についてもふれ、正しく、安全にインターネットを利用していくための基礎についても学習します。

「情報の分析」では様々な統計データをもとに、グラフの作成、基本統計量の計算、回帰分析などを通して、数字からだけでは見えてこない様々な特徴、傾向を定量的に分析する手法について学習します。

「情報の判断」では分析した情報がどのようなことを物語っているのかを定量的、客観的に判断する手法について学習します。

「情報の伝達」では各自取り組んだ課題を個人のホームページ上で公開することで、情報を発信する立場での作業や考え方について学習します。

以上の学習の集大成として、後期はグループでの演習を行ないます。グループ演習では、身近に存在する様々な疑問点からテーマを選定し、そのテーマに関する様々な情報を収集し、分析し、判断し、最後にプレゼンテーション形式で発表を行ないます。

講義では単なるコンピュータの操作方法ではなく、コンピュータを利用して情報をいかに活用するかという点に重点を置いて学習します。

講義名：情報リテラシー

対象学生：経済学部 経済学科 1年 通年

担当教員：菅原 良

主な使用ソフトウェア：Internet Explorer, MS Word, MS Excel, PowerPoint

講義内容：

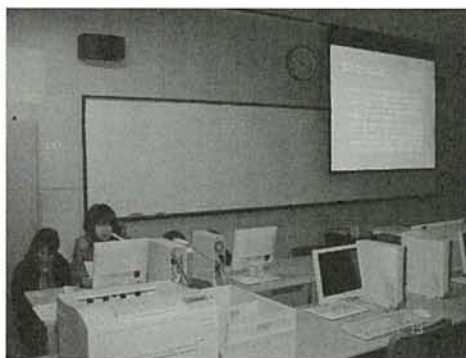
本講義は、社会科学系学部における情報リテラシー教育の実践である。社会科学系学部在籍する学生が、多岐にわたる“情報”を思考のための道具とし、それを活用して意見形成および、その表明を行おうとする場合の情報活用能力の育成を主な目的とする。

Internet Explorer, MS Word, MS Excel, PowerPoint, Active Mailなどのソフトウェアの使い方を習得したうえで、自身の設定したテーマに沿った研究を行い、最終的な成果物として得られた研究結果を、プレゼンテーションする。

特に優秀な研究は、学外に発表する機会を与える。平成16年度には、「旭山動物園の経営戦略」と題した研究論文を旭川市役所に提出し、高い評価を得た。

平成17年度の研究テーマは、下記のとおり(一部抜粋)。

- 美ら海水族館と旭山動物園の展示方法にみる集客戦略の比較検討
- 仙台七夕における商業主義化に関する考察
- ワークプレイスにおけるユニバーサルデザインの導入に関する考察
- 新球団誕生による仙台駅東口への経済効果に関する考察
- 東京ディズニーランドの経営戦略に関する考察
- 知名度の高いインターネット上の掲示板の共通点に関する比較検討



学生のプレゼンテーション風景

講義名：総合演習

対象学生：経済学部経営学科2年 後期

担当教員：大森國利

主な使用ソフトウェア：Microsoft Visual Studio.NET 2003

講義内容：

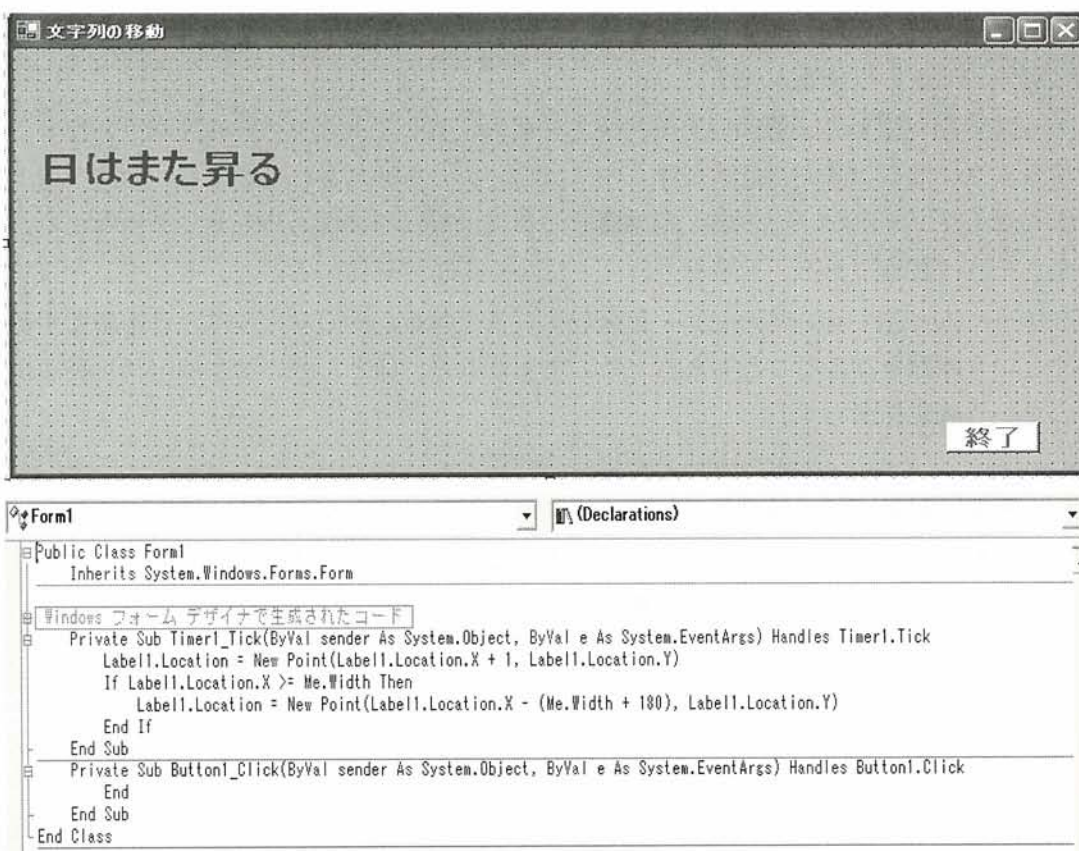
GUI の利用法の一つとして Visual Basic による PC の操作法を学習する。

主な内容

- (1) VB で使用するツールボックスの各種ボタン、プロパティウインドウ、ソリューション・エクスプローラーなどの基礎的な利用法を学習する。
- (2) 画面に動きを与えるために必要な Basic の文法（四則演算、if 文、for...next 文など）を学習する。
- (3) bmp や gif 形式で作成、保存されているデータを入力し表示する方法について学習する。

サンプル・プログラム

「日はまた昇る」という文字列をフォームの左から右へ移動させ、右端から消えたら左端からまた現れるように見せるプログラムのフォームとコード



講義名： 英語 I

対象学生： 法学部 1 年生

担当教員： 陶久利彦

主な使用ソフトウェア： Internet Explorer, Active Mail, Typing Trainer

講義内容：

私の授業では、大半の学生は高校時代までの受験英語に辟易し、すっかり英語が嫌いになっているのではないかと、という仮定から出発している。目指すは、英語を好きになることである。英語を学ぶことが楽しいと感じる経験を重ねることである。そのために、1年間で次のような授業を試みている。

1. 英語で書かれたネット情報を集め、それを日本語に翻訳する。その際、最も重要なのは、学生各自が自分にとって一番興味があると思うサイトにアクセスすることである。もとより、授業としての節度は守らなければならないが、スポーツであれ音楽であれ、旅行であれ、グルメであれ、世界遺産であれ、国際政治であれ、天文であれ、とにかく自分の好きな事柄に関する英語情報を収集することを最初の目標にしている。
2. 段階が進むと、私からキーワードを出し、それに対応したサイトを見つけ、そこから英語情報を得るという練習もする。
3. さらに段階が進むと、興味のあるサイトや個人に対して英語でメールを送り、やりとりをするようになる（若干の危険が伴うのではないかと懸念されるが、幸い今までのところ大きなトラブルはない）。勿論、学生諸君の英文は単語や文法もめっちゃくちゃなものが多いが、それは枝葉である。大事なのは、とにかく英語で発信すること。そして、今まで知らなかった人とコミュニケーションを交わすことである。そのためには、日本語で手紙を書くという課題を与えることもある。ここまできると、ほとんどの学生は（？）英語が楽しいという感想を漏らす。

平行して、授業の最後には毎回必ずその時間の感想を伝えるメールを私宛に送るよう義務づけている。その前提として、タッチタイピングができるようになるよう誘導している。仮に英語力が付かなくても、パソコンやキーボードに慣れてくれるだけでも、私の授業は意味があったということになるだろう。

講義名： コンピュータ演習

対象学生： 法学部1年 前期

担当教員： 佐藤 篤

主な使用ソフトウェア： MS-Word, Excel, Active-Mail, Internet Explorer

講義内容： 文書作成、数値計算やグラフ作成の初歩、メールやインターネットの基礎知識

(1) コンピュータの起動と終了

情報処理センター利用上の注意、パスワード、コンピュータの仕組み

(2) 文字入力と文書作成、印刷

日本語入力、フォントとポイント、印刷、Word の機能

書式の設定、段組、図の種類、図の文書への挿入、文書の保存

(3) ファイルの理解と取り扱い

ファイル/フォルダ（ディレクトリ）/ドライブ、ファイルの検索、拡張子とアプリケーションソフト

(4) 電子メールの利用

メールサーバーとアドレス、往信/返信、添付ファイルの送信、添付ファイルとコンピュータウイルス

(5) Web ブラウザの利用

インターネットの仕組み、ブラウザの設定、検索エンジン

(6) 数値データの処理

エクセル入門、表計算、式の利用

(7) 数値データの処理

グラフの作成、シミュレーション

(8) インターネットホームページ作成

HTML とは、インターネットのリンクの世界、学内版ホームページ作成

講義名：コンピュータ演習

対象学生：法学部 法律学科 1年 半期

担当教員：早坂 明夫

主な使用ソフトウェア：MS-OFFICE2000Professional (Word,Excel)

Internet Explorer,ActiveMail、99Basic

講義内容： 情報社会においてコンピュータを日常的に利用するために必要なコンピュータ操作の基礎的な知識と応用ソフトウェアの利用技術を習得させる。

- (1) MS-WORD を用いて数式を含む文章を書いたり、作図機能を使ってコンピュータシステムの構成図を描く。
- (2) MS-EXCEL を用いて、テスト結果のデータより平均、標準偏差値やさらに個々の生徒の偏差値などの成績処理をする。

	A	B	C	D	E	F	G
1	氏名	国語	数学	社会	英語	理科	国語の個人偏差値
2	a	50	40	70	65	48	36.49
3	b	60	30	68	68	76	45.84
4	c	55	58	73	75	82	41.16
5	d	67	64	68	88	58	52.39
6	e	78	72	80	80	65	62.68
7	f	80	48	82	74	77	64.55
8	g	72	50	87	66	56	57.07
9	h	68	68	76	82	57	53.33
10	i	50	56	62	78	65	36.49
11	平均値	64.44	54.00	74.00	75.11	64.89	
12	標準偏差値	10.69	12.75	7.50	7.32	10.73	

- (3) Internet Explorer を用いて、教師が指示した課題（例えば、コンピュータの発達に発展に貢献した先人の業績など）を Web サイトから調べ、レポートにまとめる。
- (4) ActiveMail を用いて、友人間でのメール交換や（１）、（３）で描いたレポートを添付書類として教官に提出することを実習する。
- (5) 99Basic を用いて、２次方程式の解を求めるプログラムや２次方程式のグラフを描画するプログラムを作成する。

講義名：基礎コンピュータ A・B

対象学生：教養学部 1 年

担当教員： 稲垣 忠

主な使用ソフトウェア： Word, Excel, PowerPoint, SkyMenu

講義内容：

基礎コンピュータ A では、大学生としての情報機器活用の基本的な技能習得を目的としている。特にレポート作成の際には、ワープロソフト(Word)の基本操作だけでは高校生ですでに履修している学生も多く、レポート作成には、論理的な文章力そのものが実際には問われる。そこで、パラグラフライティングの考え方に倣い、トピックにそった文章の作成（自己紹介文）や、他の履修科目の内容、映画・小説等のレビューを整理し、論理的な文章に組み立てるといったトレーニングを通して、ワープロの基本操作を指導した。

基礎コンピュータ B では、「データ処理の基礎を学ぶ」ことを目標とした。表計算ソフト(Excel)の基本操作について指導した後、グループごとに質問紙による調査計画をたて、得られたデータを実際に分析してみることで、表計算ソフトを使ってどのような処理ができるのか実感をもって学べるようにした。まとめとして、調査の目的、方法、結果、結論といった研究発表の形式でプレゼンテーション作成ソフト(Powerpoint)によるプレゼンテーションを各自で作成し、グループ内での相互評価および、優秀作品の発表を行った。

指導にあたっては、Powerpoint により講義内容をまとめた上で、プロジェクトを用いてスクリーンに提示した。並行して、SKYMenu により、教師画面を通して実際の操作手順について説明した。ところが教室が奥行き方向のが長いため、スクリーン上の説明を見ることが出来ない学生が多数いた。そこで、Powerpoint による講義内容は事前に Web に公開し、後方の学生は Web サイト上から閲覧するように支援を行った。

また、作品の提出、講義の感想については、本年度より e ラーニングシステムを活用した。オープンソースの LMS (Learning Management System) である moodle は、講義資料の提供だけでなく、学生どうしの意見交換や資料提出に活用できる。毎回の講義の感想と、課題提出に用いることで、学生間でも感想や作品を相互に見ることができた。

講義名： 基礎コンピュータ A および B

対象学生： 教養学部（全）

担当教員： 高橋 光一

主な使用ソフトウェア： Word, MathType, Excel

講義内容：

文書作成の基本技術、数値・文字データ処理と表計算、統計学基礎の学習

講義名：基礎コンピュータ A

対象学生：教養学部全学科 1 年

担当教員：岸 浩介

主な使用ソフトウェア：MS Word、Internet Explorer など。

講義内容：

本科目は、コンピュータリテラシーをテーマにした科目であり、コンピュータを使用して簡単な文書の作成ができるようになることを目標としている。具体的には、(i)コンピュータの起動・終了や周辺機器の使用法、タイピングの基礎といった、コンピュータの基本的な操作方法、(ii)Microsoft Word を使用しての文書作成と日本語入力方法、(iii)インターネットとメールの使用法の 3 点が、この科目の主要な目的となる。

対象学生は本学教養学部全学科であり、この科目は教員免許状を取得する際にも必要となってくるため、本学部の 1 年生のほとんどがこの科目を受講する。したがって、すでにコンピュータの操作にかなり習熟している学生から、あまりコンピュータを使ったことの無い学生まで、様々な学生が混在している。

平成 17 年度はおおむね以下のような計画に従って授業を行った。

1. コンピュータの基本操作
2. タイピングと文字入力
3. Word による文書作成と編集①（日本語入力、文字列の操作など）
4. Word による文書作成と編集②（文書のレイアウトなど）
5. Word による文書作成と編集③（図形やグラフの作成など）
6. ファイルの理解とその取り扱い
7. インターネット利用法と留意点
8. 電子メールの利用法
9. Power Point を使ったプレゼンテーション①
10. Power Point を使ったプレゼンテーション②

演習形式の授業だが、大人数の学生が受講するため、操作方法の指導を補助する補助員と連携して学生の指導に当たることが必要になってくる。

講義名：基礎コンピュータB

対象学生：教養学部 後期

担当教員：増子 正

主な使用ソフトウェア：Excel

講義内容：

Excelを用いたデータ処理の基礎を学ぶ

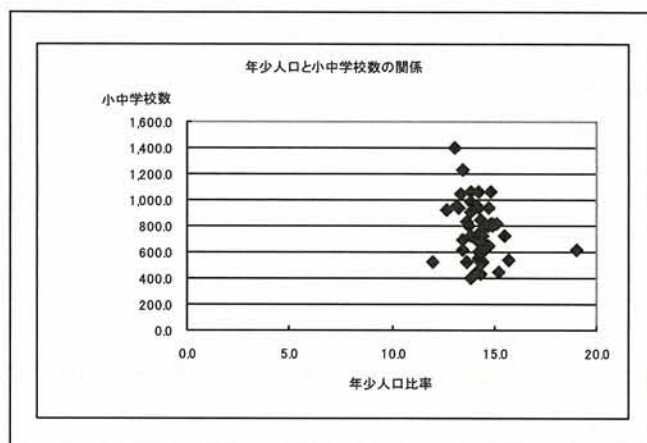
主な内容

- (1) Excelの基礎知識
- (2) ワークシートの活用法
- (3) グラフの活用法
- (4) データベース入門
- (5) Excelによる統計分析
- (6) Excelの応用例

事例

Web サイト（講義では、総務省統計局、厚生労働省などのサイトを中心に）から、それぞれが関心を持つテーマに関する統計データをダウンロードして、クロス集計や相関分析を行う。

事例は、都道府県の年少人口比と、設置されている小学校・中学校数の間に、関連が認められるかの相関分析



	年少人口割合	小中学校数
年少人口割合	1	
小中学校数	-0.243301178	1

講義名：基礎コンピュータ B

対象学生：教養学部1年 後期

担当教員：平吹 喜彦

主な使用ソフトウェア：Microsoft Excel、Microsoft Word

講義内容：

学生生活で巡り会うさまざまな学習を支援する「ツールとしてのコンピュータおよびエクセル（Excel 2003）」について、基本的な事項・操作方法を学ぶ。

主な内容

- ・オリエンテーション：授業の進め方、座席（小グループ）の決定、
情報処理センターの利用方法（『利用の手引き』の確認）
- ・コンピュータと周辺機器の構成、および基本操作
- ・エクセルとは？：データ処理とは？
- ・Web ブラウザを使って、役立つ情報を読み、集める
- ・エクセルを使う：エクセルの画面構成、文字・数値の入力、ブックの保存
表をつくる、加工する
数式を用いて四則計算を行う
いろいろなグラフをつくる、加工する
大量のデータを処理する（並び替え、抽出）
基本的な統計計算を行う
- ・総仕上げ：レポートをつくる（課題をみつけ、解析・検討し、結果を伝える）

講義名：基礎コンピュータ B

対象学生：教養学部 1 年 後期

担当教員：大野 芳希

主な使用ソフトウェア：Excel

講義内容：

統計学の簡単な内容と分析手法を、Excel をもちいた表計算の実習を通じて理解する。

主な内容

- (1) Excel を使うための基本操作
- (2) Excel による表計算
- (3) グラフの作成
- (4) データの並べ替え、条件のあったデータの抽出
- (5) 度数分布表による 1 次元のデータの整理、分析
- (6) 代表値と散布度の理解と計算
- (7) 2 次元データの整理、分析
- (8) 相関係数の理解と計算
- (9) マクロとユーザー定義関数

講義名：コンピュータと論理

対象学生：教養学部2年

担当教員：乙藤 岳志

主な使用ソフトウェア：DrScheme

講義内容：

現代のコンピュータの基本原理，考え方の基本となる諸概念を概観する．コンピュータは人間が作ったものであることを実感できるような講義とする．

後半では，コンピュータを動作させるプログラムに焦点を当て，アルゴリズムの実際を簡単なプログラミング言語を用いておこなう．

授業計画

前半は Web を用いた講義となる．中学校卒業程度の数学の知識を要求するが，前提となる基礎知識はない．

後半では，Scheme を用いたアルゴリズムの実現のしかたをみていく．コンピュータを動作させるための基本概念を体感することを目的とする．



講義名:社会調査実習

対象学生:教養学部人間科学専攻2年 通年

担当教員: 片瀬 一男・神林 博史

主な使用ソフトウェア: Word、SPSS

講義内容:

SPSS を用いて社会調査データを分析し、Word で報告書を作成する。

主な内容

- (1) SPSS による基礎集計
- (2) SPSS によるクロス集計とカイ二乗検定
- (3) Word による報告書の作成

性別 と 就職全般不安 のクロス表

			就職全般不安				合計
			非常に不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない	
性別	男性	度数	368	449	88	33	938
		性別 の %	39.2%	47.9%	9.4%	3.5%	100.0%
	女性	度数	249	244	42	10	545
		性別 の %	45.7%	44.8%	7.7%	1.8%	100.0%
合計		度数	617	693	130	43	1483
		性別 の %	41.6%	46.7%	8.8%	2.9%	100.0%

カイ二乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ二乗	8.633(a)	3	.035
尤度比	8.857	3	.031
線型と線型による連関	8.331	1	.004
有効なケースの数	1483		

講義名：マルチメディア論 A

対象学生：教養学部 情報学科 3年 前期

担当教員：早坂 明夫

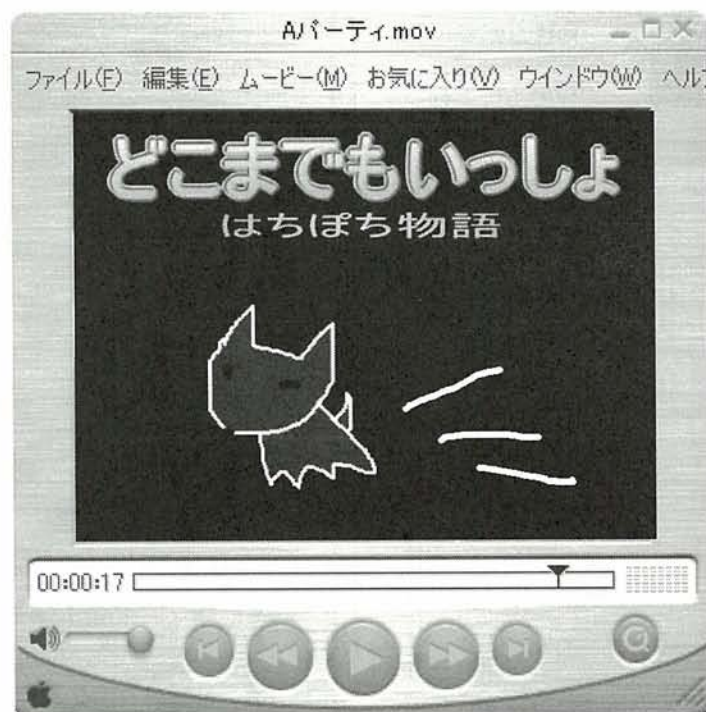
主な使用ソフトウェア：ホームページ・ビルダー

講義内容：

人間の考えは何らかのメディア（媒体）を用いてしか他の人間に伝える事ができない。本講義ではコンピュータにおける映像・音声の取り扱い技術を習得し、自分の大学を紹介する CM 映像作品を制作することを通して、マルチメディア機能の本質を理解する。

主な内容：

- (1) アクセサリのペイントツールを用いて、静止画を描く。
- (2) ホームページ・ビルダーのアニメーション作成ソフトを用いて、複数の静止画から簡単な動画を作成する。
- (3) テレビ CM 作品を題材として、その製作のねらいや映像・音情報の構成分析する。
- (4) 各自が製作しようとする作品のシナリオを創作し、絵コンテを描く。
- (5) 各自が描いた絵コンテに沿って、デジタルカメラを用い、必要な映像素材や音素材を収集する。
- (6) ホームページ・ビルダーのビデオ映像編集ソフトを用いて、作品を完成させる。



3. 6 多賀城情報処理センターのシステム紹介

多賀城情報処理センターでは平成 16 年 4 月にシステム更新が実施され、「多賀城情報処理センターシステム 2004」として新システムが稼動しています。

本システムは、次の 3 つのシステムで構成されており、多賀城キャンパスの情報教育、研究に寄与することを目的として、利用者の利便性、教育効果、研究活動支援に考慮したシステムとなっています。

1. 教育用システム

工学部各学科の教育方針を網羅し、各学科の情報教育に寄与するため、基礎教育から応用教育までをカバーし、学部 1 年生から研究科大学院生まで、幅広い利用者によって活用できるシステムです。

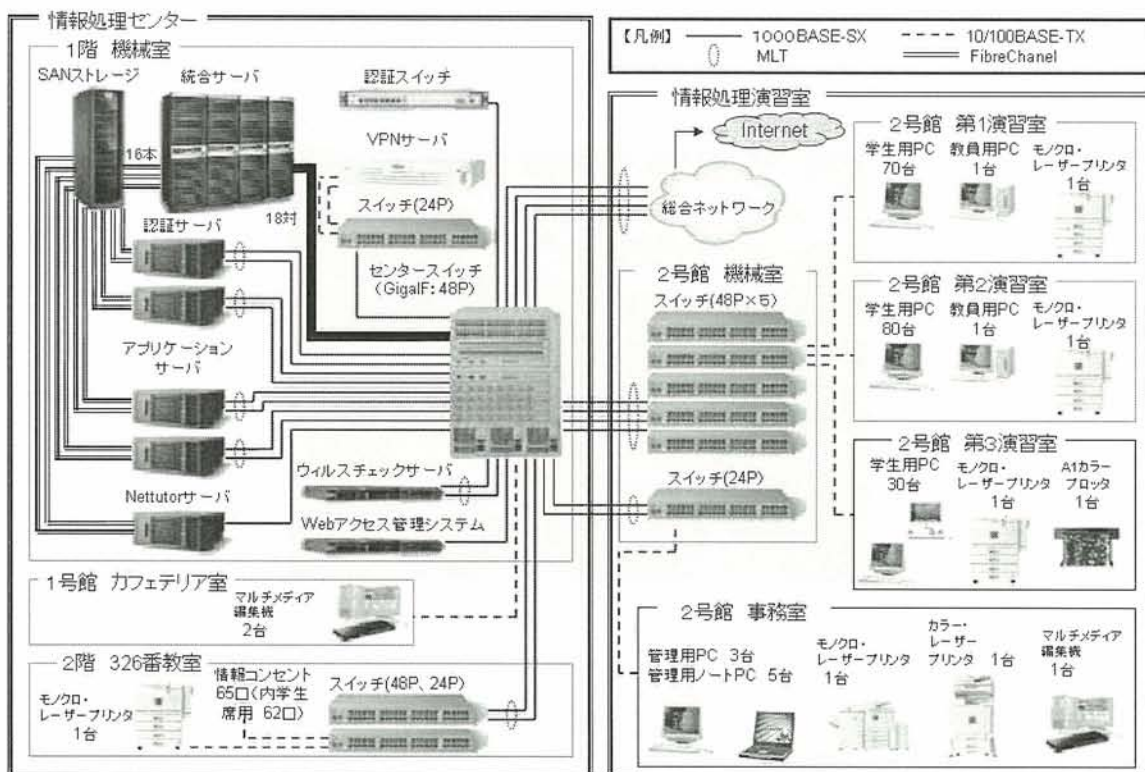
2. 研究用システム

主に工学部各学科 4 年生の卒業研究、大学院生の専門的な研究及び教員のより専門的な研究に活用できる、高速な処理能力と利便性を兼ね備え、高度なプログラム処理や解析処理を実現するシステムです。

3. 多賀城キャンパスネットワークサービスシステム

キャンパス内のネットワークサービス（ホームページのホスティングサービスやプロキシサービス等）を、高速かつ高い安定性を堅持して提供するシステムです。

(1) ハードウェア構成



(2) ソフトウェア構成

	第 1 演習室	第 2 演習室	第 3 演習室
コンピュータ種別	WindowsPC		MacintoshPC
OS	Windows XP Professional		MacOS X
ソフトウェア	Microsoft Office2003 Professional Edition (Word, Excel, PowerPoint, Access) Microsoft Visual Studio .NET Pro Autodesk AutoCAD 2005 HULINKS SigmaPlot 8.0 WolframResearch Mathematica 5.0 Cybernet MATLAB 6.5.1 Symantec AntiVirus 8.1 Workstation VMware Workstation 4.5 for Windows ASTEC ASTEC-X 4.2 OpenOffice Adobe Adobe Reader 7.0 TeraPad SunMicrosystems Java2 JDK pTex 3.1.2 Win32 版 NTT-jTex 1.9.1 TeraTERM Pro + TTssh +Lhaca FFFTP	(左記ソフトウェア以外に) Adobe Acrobat 6.0 Pro Adobe Photoshop Elements2 Adobe Illustrator CS Adobe Premiere 6. MathType	Microsoft Office:X for Mac (Word, Excel, PowerPoint,) HULINKS KaleidaGraph

3. 7 多賀城情報処理センターの利用事例紹介

	講義名	対象学生
1	コンピュータ基礎	工学部 機械創成工学科 1年 前期
2	フレッシュマンセミナー	工学部 機械創成工学科 1年 前期
3	数値材料工学	工学部 機械創成工学科 3年 前期
4	コンピュータ基礎	工学部 電気情報工学科 1年 前期
5	情報科学基礎演習	工学部 電気情報工学科 1年 通年
6	コンピュータグラフィックス	工学部 電気情報工学科 4年 後期 工学部 物理情報学科 4年 後期
7	コンピュータ基礎	工学部 物理情報工学科 1年 前期
8	コンピュータ工学	工学部 物理情報工学科 3年 後期
9	情報システム概論	工学部 物理情報工学科 1年 前期
10	コンピュータ基礎	工学部 環境土木工学科 1年 後期
11	フレッシュマンセミナー	工学部 環境土木工学科 1年 前期
12	応用数値解析演習	工学部 環境土木工学科 3年 前期

つぎに、各講義、研究で利用しているソフトウェアや講義内容、研究内容について説明します。

講義名:コンピュータ基礎

対象学生:工学部 機械創成工学科 1年 前期

担当教員:佐藤 彰、鈴木 利夫、伊達 秀文、小野 憲文(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:Internet Explorer、Active!mail、MS-Office、ASTEC-X

<講義目的>

教養教育科目の1つとして、コンピュータ・リテラシーを体得することを目的とし、また、フレッシュマンセミナーで活用するために、第3週目までに電子メールおよびインターネットに関する基本操作について学ぶ。

<到達目標>

コンピュータによる文書作成、電子メールによる情報の交換、インターネット検索、プログラミングの初歩など基本的な操作方法を習得し、他の科目履修での応用ができるようにする。

<授業内容>

- 第1回 端末機の基本操作(ログイン, ログアウトの仕方など)
- 第2回 インターネットの接続方法および掲示板の使い方
- 第3回 電子メールの利用および印刷などの各種環境設定
- 第4回 インターネットを利用した情報収集
- 第5回 ワードプロソフトの利用
- 第6回 表計算ソフトの利用
- 第7回 ワードプロ・表計算ソフトの組み合わせとその応用
- 第8回 プレゼンテーションソフトの利用
- 第9回 プログラミング言語の導入
- 第10回 整数と実数の計算
- 第11回 条件判断
- 第12回 繰り返し計算1
- 第13回 繰り返し計算2
- 第14回 関数計算
- 第15回 試験

講義名:フレッシュマンセミナー

対象学生:工学部 機械創成工学科 1年 前期

担当教員:斎藤 修、梶川 伸哉、熊谷 正朗(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:

機械創成工学科1年生を対象に開講している本科目は、プレゼンテーションとディスカッションを実践的に学ぶことを目的としている。プレゼンテーションの内容は、学生が取り組む、機械工学に関する体験である。2005年度は3教員が担当しており、それぞれ、機械製品など社会の中の機械工学に関する調査、規定材料を利用したクレーン作り&強度コンテスト、ロボットキットを使ったものづくり&プチロボットコンテストをテーマとした。受講者は150名程度(必修)で、テーマごとに約1/3に分かれている。

3テーマとも、半分以上の時間を実習に割り、それをもとに発表準備を行い、最終発表によって終わる。テーマごとに演習室の利用度合いは異なり、本稿では演習室を主に使用したプチロボットコンテストのテーマ実施について、報告を行う。

テーマ提案の段階では「ものづくりなら何でも可」であるが、結果的に1班を除き16班が標準で用意したロボット作りとなった。ロボットとしては「メカトロで遊ぶ会」が開発、頒布しているキット「梵天丸」を使用した。本キットは本来小中学生向けに企画されたものであるが、全く何のアドバイスもしなければ大学生でも試行錯誤が十分に体験できる。本体は短時間で組立が可能であり、実習の大半は動作設定のためのプログラミングとなる。プログラミングは専用の書き込み装置とコンパイラ兼書き込みプログラムで行う。前者はPCの平行ポートに接続するもので、講義の時間ごとに接続して使用した。後者はアプリケーションソフトの他に専用ドライバが必要であるが、情報処理センターに依頼し、PCに標準で導入して頂いた。

講義の進行としては、まず組立を1時間で行い、サンプルプログラムの実行、簡単な課題を達成するためのプログラム作成などを経て、最終目的であるコンテスト用の8の字走行に挑んだ。途中、経過確認とプレゼン指導のため、中間発表を課した。この時点ではリテラシー教育が未完でPowerPointが使えない班もあったが、最終発表では全員がPowerPointを利用した。その後、再度開発期間を経て、コンテスト(タイム計測)と最終発表会を実施した。最終発表会は演習室を使用し、各座席もしくは前で発表を行わせた。本科目は「相互評価」という特徴もあり、学生自身が自己評価も含め、他者の評価を行う。その集計の効率化のために独自にマークシートシステムを開発した。

ロボットを走らせる、ケーブルの抜き差しなど、演習室にはご迷惑をおかけする内容であるにも関わらず、いろいろとサポート頂いた職員の方々にこの場をお借りし、感謝申し上げる。

講義名:数値材料工学

対象学生:工学部 機械創成工学科 3年 前期

担当教員:伊達 秀文 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:ASTEC-X (Tru64UNIX)

<講義目的>

これまで学んできた、材料力学、材料工学の知識を活かしながら、変形している物体の内部の応力分布やひずみ分布を差分法や有限要素法による数値解析法を用いて求め、材料力学、材料工学の知識を深めながら数値解析法の手法を学ぶ。

<到達目標>

解析的には解けない簡単な微分方程式を差分法により解く技法を見に付けると共に、既存の有限要素法プログラムを用いて平面応力、平面ひずみの問題を解析し、スキルとしての有限要素法を理解する。

<授業内容>

- 第1回 数値材料工学の概要と講義の方針
- 第2回 FORTRAN の復習 1
- 第3回 FORTRAN の復習 2
- 第4回 差分法の基礎
- 第5回 差分法のプログラム
- 第6回 差分法によるたわみの微分方程式の解法 1
- 第7回 差分法によるたわみの微分方程式の解法 2
- 第8回 有限要素法の基礎 1
- 第9回 有限要素法の基礎 2
- 第10回 有限要素法の基礎 3
- 第11回 有限要素法プログラムの説明 1
- 第12回 有限要素法プログラムの説明
- 第13回 データの作成
- 第14回 結果の整理
- 第15回 試験

講義名:コンピュータ基礎

対象学生:工学部 電気情報工学科 1年 前期

担当教員:宮澤 正樹、大場 佳文(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:VMware、ASTEC-X (Tru64UNIX)、IE、Active!mail

<講義目的>

コンピュータのしくみについて学ぶと共に、文書作成ツールや表計算ツールなどの実習を行い、道具としてのコンピュータを体験してもらいます。

<到達目標>

コンピュータのしくみの理解や専門用語の習得。それから、今後必要となってくるであろうアプリケーションソフトやツールの操作なども習得する。

<授業内容>

- 第1回 講義の内容と KNOPPIX について
- 第2回 コンピュータのしくみ
- 第3回 オペレーティングシステム(OS)
- 第4回 エディタと電子メール
- 第5回 LaTeX による美文書作成の実習(その1)
- 第6回 LaTeX による美文書作成の実習(その2)
- 第7回 LaTeX による美文書作成の実習(課題作成)
- 第8回 calc による表計算の実習(その1)
- 第9回 calc による表計算の実習(その2)
- 第10回 calc による表計算の実習(課題作成)
- 第11回 ホームページの作成(その1)
- 第12回 ホームページの作成(その2)
- 第13回 ホームページの作成(課題作成)
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

講義名:情報科学基礎演習

対象学生:工学部 電気情報工学科 1年 通年

担当教員:芳賀 昭、宮澤 正樹 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:VMware (KNOPPIX)

<講義目的>

本講義は、計算機を1人1台使用し、情報処理の基本となる”ハードウェア”及び”ソフトウェア”の概念を学ぶと共に、プログラミング言語のひとつである”C言語”を使用し、プログラミング（特に数値計算）において必要となる”アルゴリズム”の考え方について学習する。さらに、C言語を用いた計測・制御機器等の制御方法にも触れる。

<到達目標>

”ハードウェア”と”ソフトウェア”の基本的な概念を理解することと、C言語の文法を習得し、基本的なプログラムを作成できるようになること。

<授業内容>

前期

- 第1回 UNIXマシンのログイン・ログアウト
- 第2回 ハードウェアとソフトウェア
- 第3回 エディタの使い方（実習を含む）
- 第4回 ファイル編集コマンドの演習とエディタの操作練習（実習を含む）
- 第5・6回 テキストの表示（その1・その2）（実習を含む）
- 第7・8回 変数・四則演算（その1・その2）（実習を含む）
- 第9・10回 if文（その1・その2）（実習を含む）
- 第11・12回 switch文（その1・その2）（実習を含む）
- 第13・14回 while文（その1・その2）（実習を含む）
- 第15回 総合実習

後期

- 第1・2回 for文（その1・その2）（実習を含む）
- 第3・4回 配列（その1・その2）（実習を含む）
- 第5・6回 関数（その1・その2）（実習を含む）
- 第7・8回 ポインタ（その1・その2）（実習を含む）
- 第9・10回 構造体（その1・その2）（実習を含む）
- 第11回 ファイル処理（実習を含む）
- 第12・13回 初歩的な数値計算法（その1・その2）（実習を含む）
- 第14回 計測機器等の制御方法の基礎（実習を含む）
- 第15回 総合実習

講義名: コンピュータグラフィックス

対象学生: 工学部 電気情報工学科、物理情報学科 4年 後期

担当教員: 大場 佳文 (所属: 工学部)

主な使用ソフトウェア: VMware (KNOPPIX)

<講義目的>

コンピュータグラフィックスの基礎を学ぶと共に、CG ツールの操作方法についても学習する。

<到達目標>

主に、コンピュータグラフィックスの分野における基礎知識や専門用語の習得、および CG ツールの使い方を習得する。

<授業内容>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 CG とは (歴史等)
- 第3回 デジタル画像
- 第4回 2次元画像の生成と描画 (実習を含む)
- 第5回 2次元及び3次元幾何変換 (実習を含む)
- 第6回 モデリング (各種立体モデル、実習を含む)
- 第7回 モデリング (各種曲線、実習を含む)
- 第8回 レンダリング (実習を含む)
- 第9回 レンダリング (実習を含む)
- 第10回 アニメーション (実習を含む)
- 第11回 画像の変換・合成・効果 (実習を含む)
- 第12回 画像の変換・合成・効果 (実習を含む)
- 第13回 デジタルイメージ (錯視等、実習を含む)
- 第14回 CG 関係のハードとソフト (実習を含む)
- 第15回 試験

講義名:コンピュータ基礎

対象学生:工学部 物理情報工学科 1年 前期

担当教員:淡野 照義、嶋 敏之 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:Internet Explorer、Active!mail、Microsoft Office、UNIX

<講義目的>

理系の学生がコンピュータを道具として扱うために必要な技術と資質を習得する。

<到達目標>

- 1) 基本的な情報リテラシ (Web とメールの利用、オフィスアプリケーションの利用、HTML の初歩、ネット利用のマナー) を習得する。
- 2) UNIX における基本的なリテラシ (基本コマンド、エディタ操作、ファイル操作) を習得する。
- 3) 基本的な技術用アプリケーションの操作を習得する。

<授業内容>

- 第1回 ガイダンスと Knoppix 操作
- 第2回 Web 操作と情報検索
- 第3回 電子メール
- 第4回 情報倫理
- 第5回 オフィスアプリケーション操作 (文書)
- 第6回 オフィスアプリケーション操作 (表計算)
- 第7回 オフィスアプリケーション操作 (作図)
- 第8回 オフィスアプリケーション操作 (データベース)
- 第9回 オフィスアプリケーション操作 (プレゼンテーション)
- 第10回 技術用アプリケーション操作 (数式処理)
- 第11回 UNIX 1 (UNIX 入門)
- 第12回 UNIX 2 (基本コマンド)
- 第13回 UNIX 3 (エディタ)
- 第14回 UNIX 4 (応用コマンド)
- 第15回 総合演習 (Web ページ作成)

講義名:コンピュータ工学

対象学生:工学部 物理情報工学科 3年 後期

担当教員:志子田 有光(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:

<講義目的>

コンピュータのハードウェアについて学ぶことは、ソフトウェアの理解を深めるばかりではなく、情報システム、計測技術、さらに様々な応用分野で独自性のある想像力を発揮するための基礎力となる。本講義では、マイクロプロセッサの基本的な構造を中心に学びながら計算処理の原理を学び、デジタル技術の基礎力を養う。

<到達目標>

コンピュータの構成を理解し、マイクロプロセッサのアーキテクチャと演算の概念について学習し、高度なコンピュータ理論を学ぶための基礎力を養う。

<授業内容>

- 第1回 授業の進め方、概要
- 第2回 コンピュータの歴史
- 第3回 マイクロプロセッサ
- 第4回 COMETII の構造
- 第5回 主記憶装置
- 第6回 周辺装置
- 第7回 データ表現
- 第8回 データの取り扱い
- 第9回 論理演算
- 第10回 論理回路
- 第11回 ロジック IC
- 第12回 マイクロコントローラ
- 第13回 アセンブラ言語の仕様
- 第14回 CASLII によるプログラミング
- 第15回 まとめ

講義名:情報システム概論

対象学生:工学部 物理情報工学科 1年 前期

担当教員:志子田 有光 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:Internet Explorer、Active!mail、MS-Office、ASTEC-X

<講義目的>

情報システムは社会の至る所で重要な働きを担っており、特に工学出身者は、コンピュータ、情報、ネットワークを専門としない場合であっても基礎的な知識が期待される。本講義では、情報技術資格取得を意識し、その内容に従って講義を行う。

<到達目標>

具体的な到達目標として、情報資格である「初級システムアドミニストレータ」取得レベルを見据えて講義を進める。淡野照義教授の必修科目「コンピュータ基礎」と連携し、その科目に登場しない内容で前述の資格試験に必須な分野、大学で学ぶ情報の一般常識として重要な分野をカバーする。

<授業内容>

- 第1回 企業組織と業務
- 第2回 業務改善の技法
- 第2回 データ分析の技法1
- 第3回 データ分析の技法2
- 第4回 企業会計の知識
- 第5回 情報システムの一般知識
- 第6回 情報システムの開発
- 第7回 テストおよび検収の支援
- 第8回 パソコンのハードウェア
- 第9回 データベースとSQL
- 第10回 コンピュータネットワーク
- 第11回 情報化環境の整備
- 第12回 情報化環境の管理
- 第13回 情報システムの運用
- 第14回 セキュリティ対策
- 第15回 試験

講義名:コンピュータ基礎

対象学生:工学部 環境土木工学科 1年 後期

担当教員:中沢 正利、李 相勲 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:Internet Explorer、Active!mail、Microsoft Office、UNIX

<講義目的>

今後ますます加速する情報化時代への対応として、コンピュータリテラシとしての端末操作方法および、コンピュータ利用の基礎であるプログラム作成法を学習する。

<到達目標>

コンピュータの原理に関する基礎知識、メール、文章作成、表計算の習得および、プログラムの作成能力を習得する。

<授業内容>

- 第1回 工学におけるコンピュータ利用の重要性 (Introduction)
- 第2回 コンピュータの仕組み (mechanism of computer)
- 第3回 オペレーティングシステム (OS:Operating System)
- 第4回 ポケコン使用方法 (how to use Pokecon)
- 第5回 インターネットにおける情報倫理
- 第6回 Internet 検索、E-mail 実習 (how to use E-mail)
- 第7回 Word 演習 (1)
- 第8回 Word 演習 (2)
- 第9回 Excel 演習 (1)
- 第10回 Excel 演習 (2)
- 第11回 PowerPoint 演習
- 第12回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第13回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第14回 プログラミング演習 (programming exercises)
- 第15回 試験 (examination)

講義名:フレッシュマンセミナー

対象学生:工学部 環境土木工学科 1年 前期

担当教員:中沢 正利 (所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:

<到達目標>

環境土木工学とはどのような学問かについて理解し、かつ興味を抱くように導く。その一環とし、ビデオを多用する。また、英語の大切さを認識する。

<授業内容>

- 第1回 各教員によるガイダンス 土木技術者の倫理規定
- 第2回 ビデオ上映会 NHK テクノパワー土木の世紀〈上巻〉
～夢の施設の現実とその再生:橋、トンネル、都市～
- 第3回 各教員との個別指導 (レポートの書き方)
- 第4回 各教員との個別指導 (公共事業の特殊性、自然災害)
- 第5回 ビデオ上映会 環境工学への誘い
- 第6回 各教員との個別指導 (環境土木工学の対象分野の例)
- 第7回 ビデオ上映会 NHKスペシャル～コンクリート高齢化社会への警告～
- 第8回 各教員との個別指導
- 第9回 各教員との個別指導 (予備日)
- 第10回 国際化と英語:
国際化が進む日本における技術英語の必要性和重要性等についての講義
- 第11回 各教員との個別指導 (外書講読1)
- 第12回 各教員との個別指導 (外書講読1)
- 第13回 各教員との個別指導 (外書講読3)
- 第14回 各教員との個別指導 (外書講読4)
- 第15回 各教員との個別指導 (予備日)

講義名:応用数値解析演習

対象学生:工学部 環境土木工学科 3年 前期

担当教員:中沢正利(所属:工学部)

主な使用ソフトウェア:Microsoft Excel、Mathematica

<講義目的>

基礎数値解析演習およびプログラミング演習で学んだプログラミング知識の応用として、環境土木専門分野に必要かつ実践的な数値計算について演習する。

<到達目標>

与えられた問題に対する解答を求める際に必要な支援計算のための数値計算プログラミングができるようになること。

<授業内容>

- 第1回～第2回 Basic の復習
- 第3回～第4回 専門分野の問題へのプログラミングの応用例題
- 第5回 数式処理ソフト Mathematica の利用
- 第6回 Macro と Excel VBA (Visual Basic Application)
- 第7回～第9回 VBA の解説と文法
- 第10回～第11回 ユーザーフォームとその作成
- 第12回 例題演習(1)
- 第13回 例題演習(2)
- 第14回 例題演習(3)
- 第15回 試験

4. 情報処理センター報告（平成17年度データ）

4. 1 利用者状況報告

（1）利用登録者数

学生の登録者数及び利用者数は、以下の表に示したとおりです。

土樋情報処理センターでは、文・経済・法学部学生全員のアカウントと、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを登録しています。

泉情報処理センターでは、教養学部学生全員のアカウントと、それ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを登録しています。

多賀城情報処理センターでは、工学部学生全員とそれ以外に利用申請を受けた学生のアカウントを教育用システムに登録しており、これとは別に研究用システムの利用希望者については別途申請を受けて別アカウントとして登録しています。

また、文・経済・法学部の1、2年生と教養学部全学年の学生と大学院生は泉情報処理センターで講義を受講します。文・経済・法学部の3、4年生と大学院生は土樋情報処理センターで講義を受講します。工学部の学生と大学院生は多賀城情報処理センターで講義を受講します。

その他に、各キャンパスの情報処理センターで教職員のアカウント登録と利用があります。

（1）学生

学部	文・経済・法学部、大学院		教養学部、大学院	工学部、大学院
学年	1、2年	3、4年、大学院	1～4年、大学院	1～4年、大学院
登録者数	9116		1308	教育用 2106 研究用 130
アカウント登録	土樋情報処理センター		泉情報処理センター	多賀城情報処理センター
講義利用	泉情報処理センター	土樋情報処理センター	泉情報処理センター	多賀城情報処理センター

（2）教職員

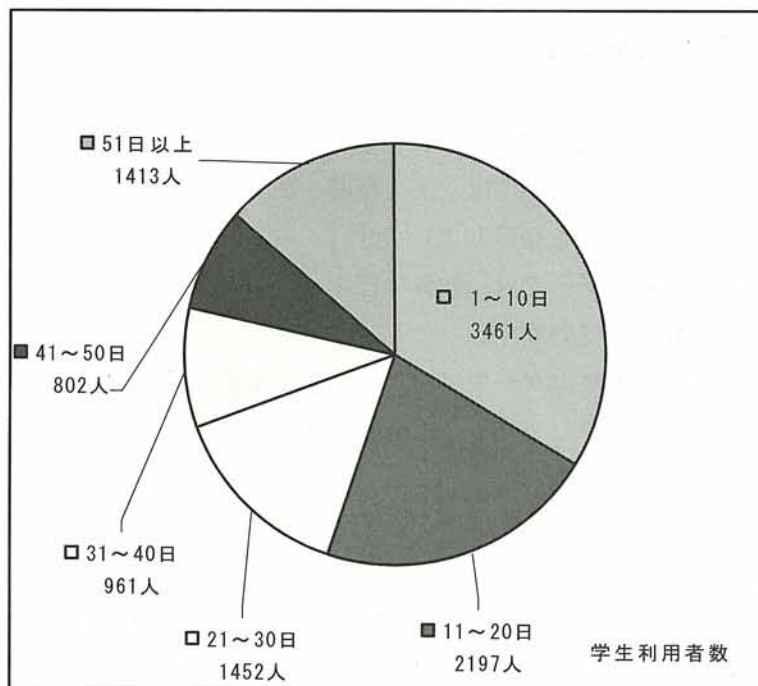
	土樋情報処理センター	泉情報処理センター	多賀城情報処理センター
登録者数	388	277	145

（２）利用者状況

3 キャンパス情報処理センターの利用者数を集計して算出しています。

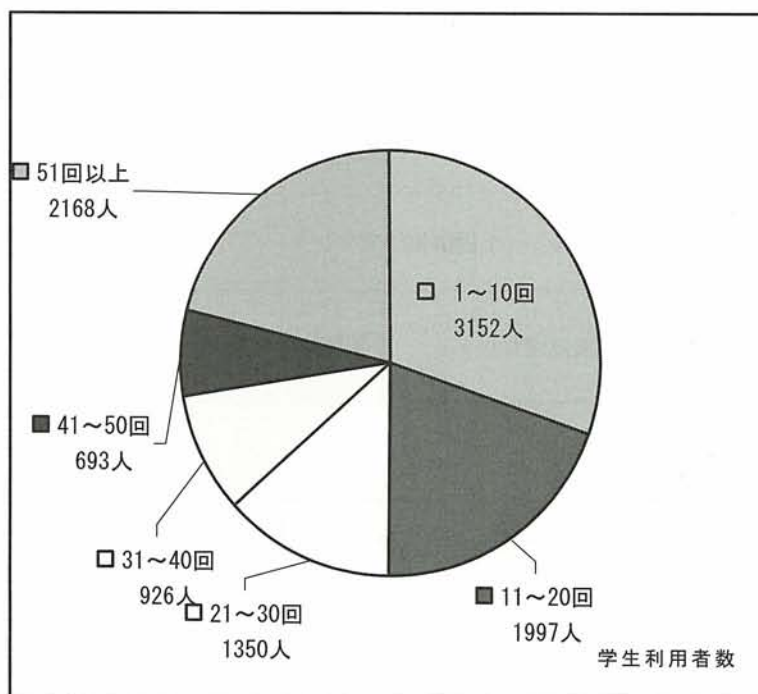
1) 利用日数別の利用者数(2005 年 4 月～2006 年 3 月)

利用日数	学生利用者数
1～10 日	3461 人
11～20 日	2197 人
21～30 日	1452 人
31～40 日	961 人
41～50 日	802 人
51 日以上	1413 人
51～60 日	560 人
61～60 日	276 人
71～60 日	200 人
81～60 日	132 人
91～60 日	79 人
100～200 日	158 人
201 日以上	8 人
合計	10286 人



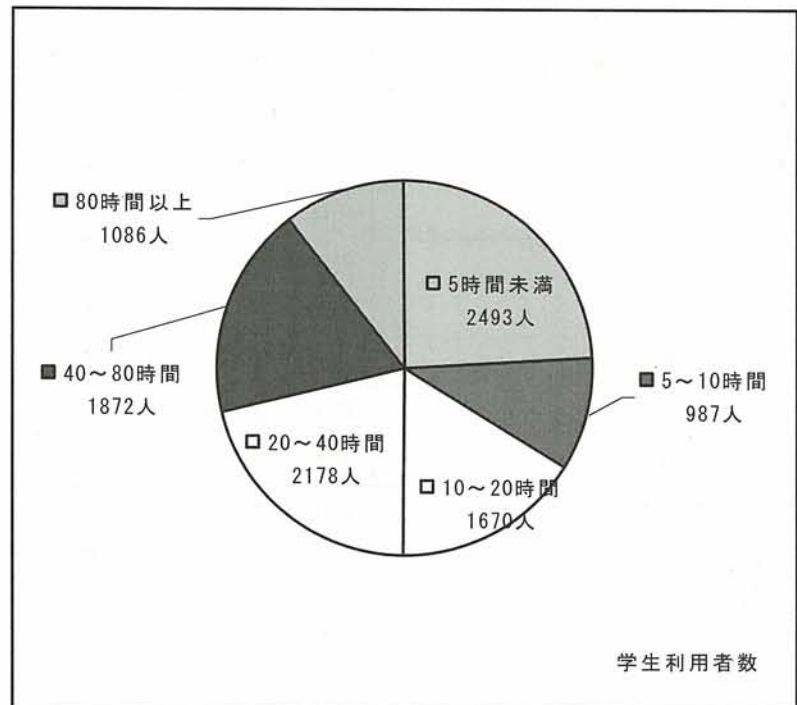
2) 利用回数別の利用者数(2005 年 4 月～2006 年 3 月)

利用回数	学生利用者数
1～10 回	3152 人
11～20 回	1997 人
21～30 回	1350 人
31～40 回	926 人
41～50 回	693 人
51 回以上	2168 人
51～60 回	515 人
61～70 回	451 人
71～80 回	333 人
81～90 回	240 人
91～100 回	132 人
100～200 回	446 人
201 回以上	51 人
合計	10286 人



3) 利用時間別の利用者数（2005年4月～2006年3月）

利用時間	学生利用者数
5 時間未満	2493 人
5～10 時間	987 人
10～20 時間	1670 人
20～40 時間	2178 人
40～80 時間	1872 人
80 時間以上	1086 人
80～160 時間	919 人
160～320 時間	146 人
320～640 時間	19 人
640 時間以上	2 人
合計	10286 人



(3) 授業科目名

土樋情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
会計情報システム	大森 國利	経営	3	101
会計情報システム	大森 國利	経営（夜間主）	3	75
経済学特殊講義Ⅳ	小柴 徹修	経済	3	66
商品学実習	斎藤 晋一	経営	3	38
商品学実習	斎藤 晋一	経営	3	41
商品学実習	斎藤 晋一	経済（夜間主）	3	24
演習二部	高木 龍一郎	法律	3	21
地域情報学	高野 岳彦	歴史	3	54
翻訳実践Ⅰ	箭川 修	英文（夜間主）	4	41
翻訳実践Ⅱ	箭川 修	英文（夜間主）	4	42
演習	アレイ, W	経済	3	21
演習	菊地 登志子	経済	4	4
演習	菊地 登志子	経済	3	5
経済モデルシミュレーション	菊地 登志子	経済（夜間主）	3	8
経済モデルシミュレーション	菊地 登志子	経済	3	58
演習	松村 尚彦	経営（夜間主）	3	14
基礎演習	松村 尚彦	経営（夜間主）	1	0
文献購読Ⅱ・Ⅲ	松村 尚彦	経営	3・4	24
国際経営論	村山 貴俊	経営（夜間主）	3	25
経営統計	谷内 正文	経営	3	179
経営工学	谷内 正文	経営（夜間主）	2	49
基礎演習	谷内 正文	経営（夜間主）	1	0
情報検索演習	石垣 久四郎	英文・歴史	4	111
情報検索演習	石垣 久四郎	英文・歴史	4	78
情報メディアの活用	石垣 久四郎	英文・歴史	3	101
情報リテラシー	岡崎 匡	経済（夜間主）	1	26
情報リテラシー	岡崎 匡	経済（夜間主）	1	21
基礎統計学	岡安 隆照	歴史	3	8
コンピュータ科学	小野 静	英文（夜間主）	1	45
コンピュータ演習	小野 静	英文（夜間主）	1	34
コンピュータ演習	大野 芳希	英文（夜間主）	1	32
経営情報論	木谷 徳智	経営	3	317
情報リテラシー	佐々木 典彰	経済（夜間主）	1	30
情報リテラシー	佐々木 典彰	経済（夜間主）	1	32

泉情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータグラフィックス入門	渡部 敏	教養	2	70
	中川 清和	教養	2	63
コンピュータと情報処理Ⅱ	佐藤 昭治	情報	3	8
コンピュータと論理	乙藤 岳志	教養	2	83
コンピュータ演習	佐藤 昭治	法律	1	64
	佐藤 昭治	法律	1	60
	佐藤 篤	法律	1	59
	菅原 研	基督・歴史	1	61
	松尾 行雄	英文	1	52
	松尾 行雄	英文	1	55
	大野 芳希	法律	1	46
	小畑 征二郎	基督・歴史	1	60
	小畑 征二郎	英文	1	54
	川田 徳明	英文	1	57
	川田 徳明	英文	1	51
	早坂 明夫	基督・歴史	1	66
	早坂 明夫	法律	1	62
	早坂 明夫	法律	1	62
プログラミング言語B	松澤 茂	情報	3	31
プログラミング初級	佐藤 昭治	情報	2	48
	松澤 茂	情報	2	53
プログラミング中級	佐藤 昭治	情報	2	41
	松澤 茂	情報	2	44
プログラミング上級	佐藤 昭治	情報	3	4
マルチメディアシステム論	早坂 明夫	情報	3	31
英語Ⅰ	陶久 利彦	法律	1	72
	風斗 博之	地域	1	40
英語ⅠB	風斗 博之	経営	1	31
英語Ⅱ	風斗 博之	法律	2	45
	風斗 博之	基督・歴史	2	12
	風斗 博之	経営	2	23
英語演習	風斗 博之	言語	1	75

泉情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
基礎コンピュータA	中川 清和	教養	1	69
	高橋 光一	教養	1	64
	稲垣 忠	教養	1	68
	尾谷 昌則	教養	1	70
基礎コンピュータA	岸 浩介	教養	1	92
	門間 俊明	教養	1	57
	風斗 博之	教養	1	78
	谷田部 武男	教養	1	57
基礎コンピュータB	柳井 雅也	教養	1	54
	中川 清和	教養	1	72
	高橋 光一	教養	1	72
	平吹 喜彦	教養	1	75
	稲垣 忠	教養	1	72
	大野 芳希	教養	1	96
	増子 正	教養	1	71
基礎統計学	岡安 隆照	基督・経営・英文	1, 2, 3	166
現代社会の諸問題Ⅱ	松澤 茂ほか	教養	3	47
言語と情報処理	風斗 博之	教養	3	25
社会調査実習	片瀬 一男ほか	人間	2	30
情報リテラシー	大場 佳文	経済	1	56
	大場 佳文	経済	1	56
	菊地 登志子	経済	1	51
	糟谷 昌志	経済	1	51
	糟谷 昌志	経済	1	60
	佐藤 健	経済	1	57
	佐藤 健	経済	1	48
	菅原 良	経済	1	29
	菅原 良	経済	1	59
	全 真嬉	経済	1	47
心理実験実習	小林 裕ほか	人間	2	47
総合演習	大森 國利	経営	2	38
	斉藤 晋一	経営	2	17
対照言語学	風斗 博之	言語	3	63

多賀城情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
コンピュータ基礎	佐藤 彰	機械創成工	1	146
コンピュータ基礎	鈴木 利夫	機械創成工	1	
コンピュータ基礎	伊達 秀文	機械創成工	1	
コンピュータ基礎	小野 憲文	機械創成工	1	
フレッシュマンセミナー	熊谷 正朗	機械創成工	1	146
フレッシュマンセミナー	斎藤 修	機械創成工	1	
フレッシュマンセミナー	梶川 伸哉	機械創成工	1	
コンピュータ応用	佐藤 彰	機械創成工	1	160
コンピュータ応用	小野 憲文	機械創成工	1	
プログラミング	梅津 実	機械創成工	2	107
数値材料工学	伊達 秀文	機械創成工	3	18
コンピュータ基礎	宮澤 正樹	電気情報工	1	151
コンピュータ基礎	大場 佳文	電気情報工	1	
情報科学基礎演習	芳賀 昭	電気情報工	1	152
情報科学基礎演習	宮澤 正樹	電気情報工	1	
数値解析法	芳賀 昭	電気情報工	2	153
数値解析法	神永 正博	電気情報工	2	
コンピュータグラフィックス	大場 佳文	電気・物情	4	91
コンピュータ基礎	淡野 照義	物理情報工	1	89
コンピュータ基礎	嶋 敏之	物理情報工	1	
情報科学基礎	岩本 正敏	物理情報工	1	96
情報システム概論	志子田 有光	物理情報工	1	90
情報社会と情報倫理	岩本 正敏	電気・物理	1	72
情報科学基礎演習	嶋 敏之	物理情報工	2	80
情報科学基礎演習	菜嶋 理	物理情報工	2	
情報処理工学	岩本 正敏	物理情報工	2	77
電気電子回路学実習	星宮 務	物理情報工	2	80
コンピュータ工学	志子田 有光	物理情報工	3	71
コンピュータネットワーク演習	林 優一	電気・物情	4	69
コンピュータ基礎	中沢 正利	環境土木工	1	161
コンピュータ基礎	李 相勲	環境土木工	1	
フレッシュマンセミナー	中沢 正利	環境土木工	1	156
プログラミング演習	石川 雅美	環境土木工	2	203
応用数値解析演習	中沢 正利	環境土木工	3	155

多賀城情報処理センター

講義名	担当教員	開講学科	年次	履修者数
CAD 演習	石川雅美・杉田美樹	環境土木工	3	136
土木工学セミナー	石川 雅美	環境土木工	3	134
教科教育研究Ⅰ（情報）	井口 巖	電気・物情	3	18
教科教育研究Ⅲ（情報）	井口 巖	電気・物情	3	18

（４）時間割表

土樋情報処理センター

		1校時(8:30～10:00)	2校時(10:30～12:00)	3校時(12:40～14:10)	4校時(14:20～15:50)	5校時(16:00～17:30)	6校時(18:00～19:30)	7校時(19:40～21:10)
月	811				会計情報システム (後) 商品学実習	会計情報システム (後) 商品学実習		
	812				会計情報システム (後) 商品学実習	会計情報システム (後) 商品学実習		
	813							
	814		基礎統計学					経済モデル・シミュレーション
火	811				(後) 経営統計	法情報調査		国際経営論
	812				(後) 経営統計	法情報調査		国際経営論
	813						情報リテラシー	情報リテラシー
	814			経済モデル・シミュレーション		演習		
水	811		(後) 地域情報学	(後) 商品学実習	(後) 経営情報論		(後) 経営工学	
	812		(後) 地域情報学	(後) 商品学実習	(後) 経営情報論			
	813					演習		
	814					演習		
木	811						(前) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ (後) 商品学実習	(前) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ (後) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ
	812						(前) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ (後) 商品学実習	(前) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ (後) 翻訳実践Ⅰ・Ⅱ
	813						情報リテラシー	情報リテラシー
	814						(後) 基礎演習	
金	811				(前) 情報検索演習 (後) 情報検索演習	(後) 情報メディアの活用	(前) コンピュータ科学 (後) コンピュータ科学	
	812				(前) 情報検索演習 (後) 情報検索演習	(後) 情報メディアの活用	(後) コンピュータ科学	
	813							
	814							
土	811					(前) 経済学特殊講義Ⅳ		
	812							
	813							
	814							

E・・・経済学科
B・・・経営学科
C・・・商学科

L・・・英文学科
H・・・史学科
J・・・法律学科

(前)・・・前期のみ
(後)・・・後期のみ

泉情報処理センター

	教室	1 校時(8:30～10:00)	2 校時(10:30～12:00)	3 校時(12:40～14:10)	4 校時(14:20～15:50)	5 校時(16:00～17:30)
月	531 第7コンピュータ室		(前) ドイツ語Ⅰ (後) ドイツ語Ⅰ			
	532 第6コンピュータ室	(後) コンピュータグラフィクス入門	(前) コンピュータ演習 (後) コンピュータ演習	(前) マルチメディアシステム論 (後) コンピュータ演習	情報リテラシー	情報リテラシー
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室	(後) コンピュータと情報処理Ⅱ			(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級
	536 第1コンピュータ室		(前) コンピュータグラフィクス入門	(後) プログラミング言語B	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級	(前) プログラミング初級 (後) プログラミング中級
火	531 第7コンピュータ室	(後) 言語と情報処理	言語文化演習		(後) 対象言語学	(前) 言語とメディア (後) 基礎演習
	532 第6コンピュータ室	(前) 基礎コンピュータA (後) コンピュータと論理	(前) コンピュータ演習	(前) 基礎コンピュータA (後) 基礎コンピュータB	(前) 基礎コンピュータA	
	533 第4コンピュータ室			(前) 基礎統計学	(後) 総合演習	(後) 総合演習
	534 第3コンピュータ室		(前) 基礎コンピュータA (後) 基礎コンピュータB		(前) コンピュータ演習 (後) 総合演習	(後) コンピュータ演習
	536 第1コンピュータ室	(後) 基礎コンピュータB	(前) 基礎コンピュータA (後) 基礎コンピュータB	(前) 基礎コンピュータA	心理実験実習	心理実験実習
水	531 第7コンピュータ室	(前) ドイツ語Ⅰ (後) ドイツ語Ⅰ		ドイツ語ⅠA	英語演習	
	532 第6コンピュータ室	(後) 基礎コンピュータB	情報リテラシー	情報リテラシー	英語Ⅰ	
	533 第4コンピュータ室			(前) 基礎演習Ⅱ (後) 基礎演習Ⅰ		
	534 第3コンピュータ室	(前) プログラミング上級	(前) コンピュータ演習		(前) 物権法	
	536 第1コンピュータ室		情報リテラシー	情報リテラシー	(後) 基礎演習	(後) 総合演習
木	531 第7コンピュータ室	英語Ⅱ	英語Ⅱ			
	532 第6コンピュータ室	(前) コンピュータ演習 (後) 基礎コンピュータB	(後) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習 (後) 基礎コンピュータB		
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室	(後) 現代社会の諸問題	(前) コンピュータ演習	(前) コンピュータ演習		
	536 第1コンピュータ室	(前) 基礎コンピュータA (後) コンピュータ演習		(前) 基礎コンピュータA (後) コンピュータ演習		
金	531 第7コンピュータ室		英語Ⅰ	英語ⅠB		英語演習
	532 第6コンピュータ室		(後) 基礎統計学			
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室	情報リテラシー	情報リテラシー		社会調査実習	社会調査実習
	536 第1コンピュータ室	情報リテラシー	情報リテラシー			
土	531 第7コンピュータ室		英語Ⅱ			
	532 第6コンピュータ室					
	533 第4コンピュータ室					
	534 第3コンピュータ室					
	536 第1コンピュータ室					

(前)・・・前期のみ (後)・・・後期のみ

4. 情報処理センター報告（平成17年度）

多賀城情報処理センター

	教室	1校時(8:30～10:00)	2校時(10:30～12:00)	3校時(12:40～14:10)	4校時(14:20～15:50)	5校時(16:00～17:30)
月	第1演習室	(後)情報社会と情報倫理	(前)応用数値解析演習		(前)コンピュータ基礎 (後)情報科学基礎	(後)情報科学基礎
	第2演習室		(前)応用数値解析演習 (後)コンピュータグラフィックス		(前)数値材料工学	
火	第1演習室	(後)情報処理工学	(後)情報処理工学		(前)プログラミング	(前)コンピュータ基礎 (後)フレッシュマンセミナー
	第2演習室	(後)情報科学基礎演習	(後)情報科学基礎演習	(後)コンピュータ基礎	(前)プログラミング	(前)コンピュータ基礎 (後)土木工学セミナー
水	第1演習室	(後)プログラミング演習	(前)数値解析法	(前)コンピュータ基礎 (後)電気電子回路学実習	(前)情報科学基礎演習 (後)電気電子回路学実習	(前)情報科学基礎演習 (後)電気電子回路学実習
	第2演習室	(後)プログラミング演習	(前)数値解析法	(前)コンピュータ基礎	(後)コンピュータ基礎	(前)情報科学基礎演習 (後)情報科学基礎演習
木	第1演習室		(前)電子計算機		(後)プログラミング演習	(前)コンピュータネットワーク演習
	第2演習室	(前)情報科学基礎演習 (後)情報科学基礎演習	(前)電子計算機	(後)コンピュータ工学	(後)プログラミング演習	(前)コンピュータ基礎
金	第1演習室	(前)フレッシュマンセミナー	(後)コンピュータ応用			(後)土木工学セミナー
	第2演習室	(前)フレッシュマンセミナー	(前)情報システム概論 (後)コンピュータ応用		(前)コンピュータ基礎	(前)コンピュータ基礎 (後)土木工学セミナー
土	第1演習室	(前)教科教育研究Ⅰ (後)教科教育研究Ⅲ	(前)CAD演習			
	第2演習室		(前)CAD演習			

(前)・・・前期のみ (後)・・・後期のみ

4. 2 各種会議報告

（1）情報システム委員会

日 時	場 所	議 題
平成17年11月24日 16時00分～	土樋キャンパス 5号館6階 第4会議室	1. 各キャンパス情報処理センター平成17年度補正予算について 2. 各キャンパス情報処理センター平成18年度当初予算について 3. その他

（2）情報システム部会

日 時	場 所	議 題
平成17年4月14日 14時00分～15時00分	土樋キャンパス 5号館6階 第4会議室	1. 各キャンパスおよび学部からの報告 2. 総合ネットワーク規程改正について（報告） 3. 個人情報保護に関する研修について（報告） 4. その他
平成17年5月26日 15時00分～16時00分	多賀城キャンパス 1号館3階 第1会議室小	1. 各キャンパスおよび学部からの報告 2. その他
平成17年7月7日 15時00分～16時00分	泉キャンパス 1号館3階 第2会議室	1. 各キャンパスおよび学部からの報告 2. ソフトウェアの導入に関する原則について 3. 教材の印刷に関して 4. 泉情報処理センターからの協議事項 5. 就職部主催の講習会の対応について 6. その他
平成17年10月6日 14時00分～14時30分	土樋キャンパス 5号館6階 第4会議室	1. 各キャンパスおよび学部からの報告 2. 非常勤IDの取り扱いの現状報告 3. 情報処理センターの利用について（新入生向け）
平成17年11月24日 14時00分～15時00分	土樋キャンパス 5号館6階 第4会議室	1. 各キャンパスおよび学部からの報告 2. 各キャンパスの情報処理センター予算について 3. その他

（3）所員会議

土樋情報処理センター

日 時	場 所	議 題
平成17年 6月 9日 14時30分～15時30分	土樋 5号館6階 第4会議室	1) ソフトウェア導入に関する原則の確認 2) その他
平成17年11月 4日 12時00分～12時30分	土樋 8号館3階 第4会議室	1) 平成17年度補正予算について 2) 平成18年度当初予算について 3) その他

泉情報処理センター

開催なし

多賀城情報処理センター

日 時	場 所	議 題
6月17日（金）	2号館3階事務室	1. 工学部教授会委員会「情報処理センター委員会」 との関係について 2. 情報処理演習室でKnoppixを利用したネットワー ク利用について 3. 326教室の取り扱いについて 4. その他
11月18日（金）	2号館3階事務室	1. VMwareバージョンアップについて
12月26日（金）	2号館3階事務室	1. 平成18年度以降の電気情報工学科開講講義におけ る326番教室の利用について

4. 3 センター見学者

土樋情報処理センター

	見学日	団体名	人数
1	4月20日	福島県立飯館村飯館中学校	
2	4月28日	宮城県栗原郡志波姫町立志波姫中学校	78
3	月28日	宮城県佐沼高等学校	96
4	5月2日	福島県桜の聖母学院高等学校	153
5	5月19日	宮城県塩釜高等学校	29
6	6月21日	山形県立米沢商業高等学校	34
7	6月29日	福島県田村郡三春町立三春中学校	14
8	6月29日	宮城県米山高等学校	4
9	6月29日	山形県立南陽高等学校	115
10	7月7日	宮城県岩ヶ崎高等学校	114
11	8月31日	山形県立寒河江市立陵南中学校	6
12	7月7日	宮城県岩ヶ崎高等学校	114
13	9月29日	宮城県仙台南高等学校	42
14	10月11日	青森県大湊高等学校	1
15	10月12日	岩手県盛岡南高等学校	94
16	10月12日	岩手県立水沢高等学校	92
17	10月19日	宮城県築館高等学校	7
18	10月27日	宮城県岩沼市立岩沼西中学校	44
19	11月2日	山形県新庄市立日新中学校	12
20	11月18日	福島県立須賀川桐陽高等学校	12
21	11月18日	宮城県仙台市立住吉台中学校	4
22	11月18日	宮城県仙台市立台原中学校	4

泉情報処理センター

	見学日	団体名	人数
1	4月28日	宮城県佐沼高等学校	16
2	4月28日	宮城県佐沼高等学校	37
3	5月10日	盛岡大学付属高校	40
4	5月17日	宮城県佐沼中学校	6
5	5月20日	宮城県迫桜高等学校	91
6	5月20日	宮城県迫桜高等学校	66
7	5月27日	私立福島高等学校	76
8	5月27日	私立福島高等学校	12
9	5月31日	宮城県中新田高等学校	18
10	6月7日	福島成蹊高等学校	67
11	6月9日	山形県立谷地高等学校	14
12	6月16日	岩手県立盛岡北高等学校	60
13	6月17日	岩手県立宮古高等学校	75
14	6月22日	岩手県立高田高等学校	196
15	6月29日	宮城県角田高等学校	146
16	6月29日	宮城県角田高等学校	91
17	6月30日	宮城県富谷高等学校	55
18	6月30日	宮城県富谷高等学校	30
19	6月30日	福島県立相馬東高等学校	45
20	6月30日	岩手県立金ヶ崎高等学校	67
21	7月2日	福島県立郡山商業高等学校	25
22	7月5日	聖ウルスラ英智	13
23	7月6日	山形県立庄内総合高校	36
24	7月7日	宮城県涌谷高等学校	13
25	7月8日	山形県立天童高等学校	37
26	7月8日	宮城県塩釜女子高等学校	49
27	7月22日	福島県立喜多方東高等学校	30
28	7月29日	秋田経法大附属高等学校	2
29	7月29日	秋田県立秋田北高等学校	6
30	8月2日	山形県立酒田西高等学校	103
31	8月12日	福島県立あさか開成高等学校	29
32	9月16日	福島県立光南高等学校	13
33	9月21日	福島県立安達高等学校	89

	見学日	団体名	人数
34	9月22日	山形県立米沢東高等学校	135
35	9月27日	福島県立郡山東高等学校	52
36	9月27日	宮城県角田高等学校	30
37	9月28日	福島県立原町高等学校	44
38	10月5日	岩手県立前沢高等学校	121
39	10月7日	福島県立福島南高等学校	81
40	10月7日	盛岡市立高等学校	21
41	10月12日	福島県立福島南高等学校	35
42	10月15日	福島成蹊高等学校	29
43	10月19日	盛岡白百合学園中学高等学校	18
44	10月19日	宮城県築館高等学校	23
45	10月20日	宮城県岩出山高等学校	14
46	10月28日	福島県立原町高等学校	90
47	11月1日	宮城県第三女子高等学校	50
48	11月8日	宮城県伊具高等学校	10
49	11月22日	山形県立左沢高等学校	31
50	11月24日	秋田和洋女子高等学校	18
51	11月29日	山本学園高等学校	6
52	1月25日	常盤木学園高等学校	24
53	1月25日	青森県立八戸西高等学校	0
54	2月8日	宮城県黒川高等学校	80
55	2月10日	福島県立本宮高等学校	23
56	3月10日	尚絅学院女子高等学校	50
57	3月29日	秋田県立能代北高等学校	25
58	3月30日	秋田県立能代高等学校	42

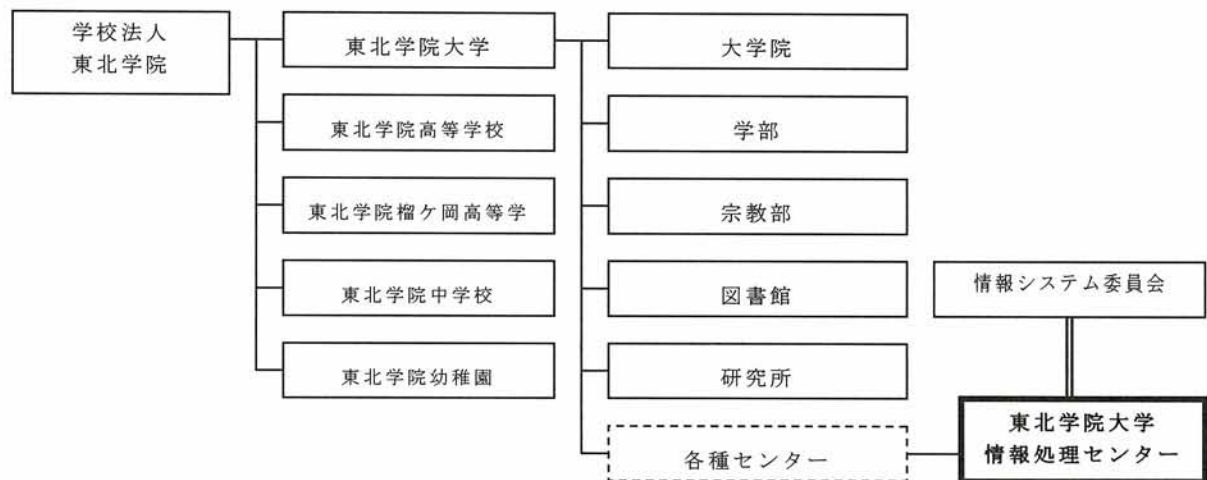
多賀城情報処理センター

	見学日	団体名	人数
1	10月15日	福島県小高高等学校	

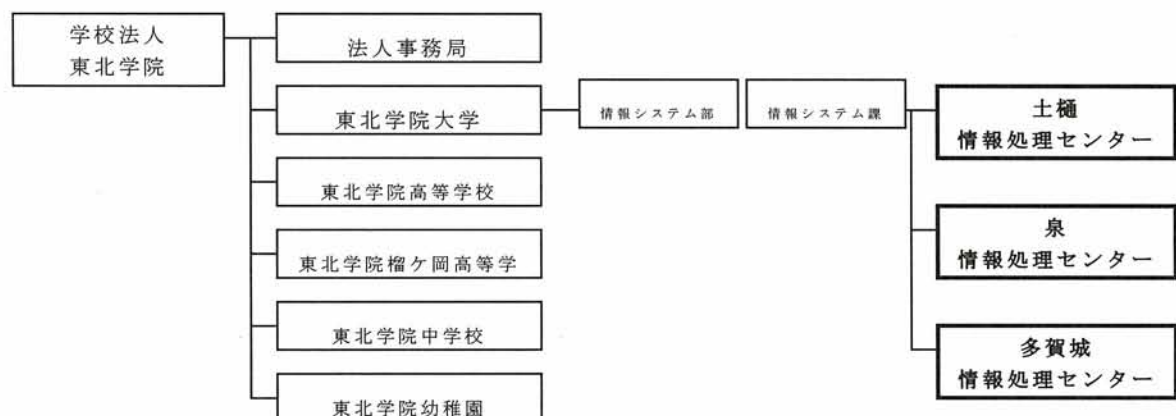
5. 平成17年度情報処理センター運営組織

5. 1 組織図

(1) 教学組織図



(2) 事務組織図



5. 2 情報システム委員会名簿

氏 名	役 職
高木 龍一郎	情報システム部長
遠藤 健一	情報システム副部長
根市 一志	情報システム副部長
澤野 和博	情報システム副部長
佐藤 彰	情報システム副部長
松澤 茂	情報システム副部長
辻 秀人	文学部（センター所員）
櫻井 貴憲	経済学部（センター所員）
宮川 基	法学部（センター所員）
石川 雅美	工学部（センター所員）
谷田部 武男	教養学部（センター所員）
佐々木 文彦	法人事務局（庶務課長）
吉田 知致	法人事務局（広報課長）
高橋 清昭	法人事務局（財務課長）
菅野 健	大学（総務部次長）
高橋 嘉男	大学（総務部次長）
相澤 義光	大学（総務部次長）
井上 捷二	大学（教務課長）
荒 孝夫	大学（学生課長）
吉田 俊一	大学（施設課長）
石井 勝男	大学（情報システム課長）

5. 3 情報処理センター構成員名簿

	氏 名		学 部	発 令	任 期
センター長	高 木 龍一郎		法学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
主 任	土樋情報処理センター	高 木 龍一郎	法 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	多賀城情報処理センター	佐 藤 彰	工 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	泉情報処理センター	松 澤 茂	教養学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
所 員	土樋情報処理センター	辻 秀 人 桜 井 貴 憲 宮 川 基	文 学 部 経 済 学 部 法 学 部	平成 16 年 4 月 1 日 平成 16 年 4 月 1 日 平成 17 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日 平成 18 年 3 月 31 日 平成 18 年 3 月 31 日
	多賀城情報処理センター	石 川 雅 美	工 学 部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
	泉情報処理センター	谷田部 武 男	教養学部	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
職 員	土樋情報処理センター	熊 谷 由 香 高 橋 秀 之 原 田 淳			
	多賀城情報処理センター	齋 藤 吉 重 坂 本 尚 彦 鈴 木 慶 明			
	泉情報処理センター	泉 亜紀子 熊 谷 丈 晃 桜 井 宏 行			

6. 東北学院大学情報処理センター各種利用規程

6. 1 東北学院大学情報システム委員会規程

(制定 平成16年4月1日)

(趣旨)

第1条 この規程は、東北学院大学情報システム委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会は東北学院大学情報処理センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本方針、その他重要事項を審議する。

(組織)

第3条 委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 情報システム部長
- (2) 情報システム副部長
- (3) センター所員
- (4) 法人事務局職員 庶務課長、広報課長及び財務課長
- (5) 大学事務職員 総務部次長、総務部次長（多賀城キャンパス担当）、総務部次長（泉キャンパス担当）、総務課長、教務課長、学生課長、施設課長及び情報システム課長

2 委員長は情報システム部長とする。

(審議事項)

第4条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) センターの事業および予算・決算
- (2) その他、センターの運営に関して委員会が必要と認めた事項

(委員の委嘱)

第5条 委員の委嘱は、大学長がこれを行う。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第7条 委員会は委員長がこれを招集し、議長となる。

2 委員会は、必要に応じて委員以外の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(センターの管理運営)

第8条 センターの管理運営は、東北学院大学情報処理センター規程の定めるところによる。

(事務の所管)

第9条 委員会の事務は、情報システム課が行う。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は委員会の発議により学部教授会及び全学教授会の議を経て理事会がこれを行う。

附則

- 1 この規程は平成16(2004)年4月1日施行する。
- 2 東北学院大学情報処理センター運営委員会規程は、これを廃止する。

6. 2 東北学院大学情報処理センター規程

(制定 平成2年6月1日)

改正 平成7年4月1日

改正 平成16年4月1日

(設置)

第1条 東北学院大学（以下「大学」という。）に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この規程は、東北学院大学情報システム委員会規程第8条にもとづき、センターの組織および運営について必要な事項を定める。

(施設)

第3条 センターの情報処理施設は次の場所に設置する。

- (1) 東北学院大学土樋キャンパス（仙台市青葉区土樋一丁目3番1号）
- (2) 東北学院大学多賀城キャンパス（多賀城市中央一丁目13番1号）
- (3) 東北学院大学泉キャンパス（仙台市泉区天神沢二丁目1番3号）

2 前項各号の施設の名称は以下のとおりとする。

- (1) 東北学院大学土樋情報処理センター
- (2) 東北学院大学多賀城情報処理センター
- (3) 東北学院大学泉情報処理センター

(目的)

第4条 センターは、学術研究のための情報処理を行うことによって教育・研究の推進に寄与することを目的とする。

(組織)

第5条 センターに次の職員を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 主 任 各キャンパスに1名ずつ
- (3) 所 員 各学部から1名
- (4) 事務職員 若干名

(センター長)

第6条 センター長は、情報システム部長がこれにあたり、大学長が委嘱する。

- 2 センター長は、センターに関する業務を統括する。
- 3 センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(主任)

第7条 主任は、情報システム部長または副部長がこれにあたり、大学長が委嘱する。

- 2 主任はセンター長を補佐し、各キャンパスに設置した情報処理施設に関する業務を統括する。
- 3 主任の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(所員)

第8条 所員は大学の教育職員からセンター長の推薦により大学長がこれを委嘱する。

- 2 所員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(事務職員)

第9条 事務職員はセンターの目的遂行のために必要な一般事務、並びに技術的諸業務を行う。

(利用規則)

第10条 センターの利用規則は別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規則の改廃は情報システム委員会の議を経て理事会がこれを行う。

附則

この規程は、平成2年6月1日から施行する。

附則

この規程は、平成7（1995）年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成16（2004）年4月1日から施行する。

6. 3 東北学院大学情報処理センター利用規則

改正 平成16年4月1日

（利用者の資格）

第1条 東北学院大学情報処理センター（以下「センター」という）を利用することができる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 東北学院の専任職員
- (2) 東北学院大学の院生・学生
- (3) その他、東北学院大学情報処理センター長（以下「センター長」という）が適当と認めた者

（利用の申請）

第2条 センターを利用する者は、センター所定の利用申請書をセンター長に提出し、その承認を得なければならない。ただし、第1条第2号に該当する者は、原則として指導教員が申請者となる。

（利用の方法）

第3条 センターの利用については、センター長の指示に従うものとする。

（利用の停止）

第4条 利用者が本規則に従わない場合は、センター長がその者の利用を停止することがある。

（利用報告書の提出）

第5条 利用者はセンター長から報告を求められたときは、速やかに利用報告書をセンター長に提出しなければならない。

（規程の改廃）

第6条 この規則の改廃は情報システム委員会が行う。

附則

- 1 この規程は平成2年6月1日から施行する。
- 2 東北学院大学情報処理センター利用規則は、これを廃止する。

附則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

編集後記

このたび、「東北学院大学情報処理センター年報 第4号」を無事に発刊することができ、ほっとしております。お忙しい中、ご寄稿いただいた早坂先生、講義内容ならびに研究内容のご紹介を執筆いただいた先生方に心から感謝申し上げます。

第4号の発刊はだいぶ遅れてしまいましたが、そのことによって「年報、はやく欲しいです。」「年報、いつできますか？」などの貴重な声を聞くことができました。この年報が必要とされているということは、大変喜ばしいことと感じます。これからも、必要とされる年報作りを心がけ、なるべく早く皆様のお手元にお届けできるように努力していきたいと思います。

編集スタッフ

● 交通案内（アクセスマップ）



● 土樋キャンパス

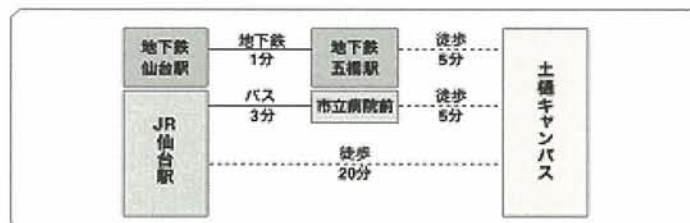
（文・経済・法学部3，4年次および夜間主）

土樋情報処理センター

〒980-8511

仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

電話 (022)-264-6502



● 多賀城キャンパス

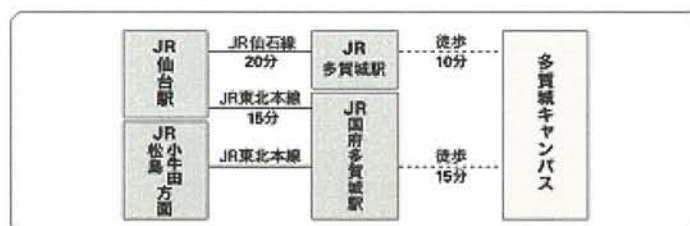
（工学部）

多賀城情報処理センター

〒985-8537

多賀城市中央一丁目13番1号

電話 (022)-368-1100



● 泉キャンパス

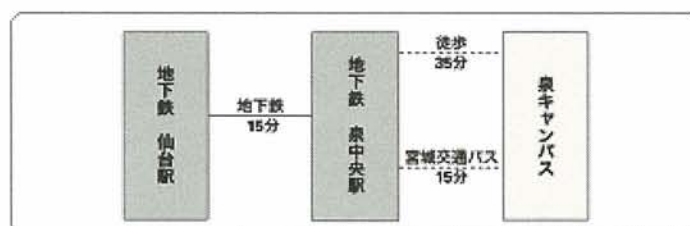
（文・経済・法学部1，2年次および教養学部）

泉情報処理センター

〒981キ-3193

仙台市泉区天神沢二丁目1番1号

電話 (022)-375-1181





東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY